

古訓  
醫傳

風寒熱病方緯篇

宇津木益夫 著

四

十武  
403  
4



門 武 9  
編 503  
4

古訓醫傳卷十七

風寒熱病方緯篇第四  
尾張 宇津木益夫 述

○辨五藏風寒積聚病脉證并治法第十二  
コノ篇ハ、五藏ニ風寒ノ中リタル形状ヲ述テ、凡例ノ如ク  
書列子タル条多クシテ、方ヲ繫キタル本条ハ至テ少ナシ  
ソノ上ニ五藏ノ風寒モ欽テ全カラズ、故ニ他書ヲ以テ補  
テ、其数ヲ全フシ、其間ニ三焦ノ竭部ヲ列子、積聚病ヲ奉ル  
ニツヒテ、診脉ノ法則ト、部位トヲ示ス、ヨク工夫シテ、真  
解ヲ得ベキ者ナリ、

口肺中風者、口燥而喘、身運而重、冒而腫脹、

五藏風寒積聚篇 一 見川千成

溫知社  
圖書記

コレハ外邪ノ風氣、肺ノ部位ヲ動搖シタルナリ、肺ハ五藏ノ上ニ居シテ、氣道ヲ主リ、其部屬ハ皮毛ナレバ、肺氣動搖スレバ、胸上咽喉俱ニ氣和セズシテ、自ラ熱ヲ生ズ、故ニ口燥クナリ、其上ニ其氣ノ迫リニテ、水飲咽ニヒツ、キ、燥クニ隨テ、痰ヲ生ジテ喘ヲナス、コレ水上ニ迫リテ、肺ノ部位ヲ犯シタルナリ、サテ又一身ノ皮毛モ、肺氣ト相通シテ和セズ、故ニ皮表ニ滯ル處アリテ、重クナルナリ、由テ身運而重ト云リ、又上、肺氣和セズ、外、皮毛動搖シテ、身運而重キ故ニ、齟冒シテ氣分塞リ、一身皮毛ノ處、腫脹スルナリ、コレ皆肺ノ部位ト、其部屬トノ和セザルヨリシテ、此人如クニナルナリ、コレ肺ノ中風ナリ、按ズルニ素問風論曰、肺風之狀、

多汗、惡風、色餅然、白、時欬、短氣、晝日則差、暮則甚、診在眉上、其色白トアリ、コ、ノ本文トハ、肺風ノ形状、大ニ異ナレ、凡、病者ニ對スルニ、中風ノ証ニ多種ノ變化アレバ、コノ素問ノ肺風ノ証ヲ、毎々診シタルトアリ、回テコ、ニ奉ゲ示スナリ、餅、普幸切、餅、皸、白、白、又、淺薄色、王注、薄白色也トアリ、

□肺中寒、吐、濁涕、

コレ中風ハ、經篇ノ中風ト同ク、動搖ノ義ニシテ、乃チ氣道陽証ナリ、中寒ハ、經篇ノ傷寒トハ、少シク異ニシテ、血分陰証ノ意ナレバ、中風中寒ノ二ツニ、陰陽氣血ノ差別ヲ含ンデ見ルベシ、サテコ、ノ肺中寒ハ、胸中ノ陽氣ノ行ラザルヨリ、自ラ水飲タマリ、陰血陽氣ノ助ケヲ失ヒタルガ故ニ、

其胸ニアル物ヲ吐スルナリ、コレ乃チ手太陰ハ肺經ナレ  
 バ、太陰ノ吐食不下者ト同ジ、右ノ如ク寒氣ニアタリテ、上  
 ノ陽氣メグラズ、陰血不布トキハ、ソレガ為ニ水モ動ズシ  
 テ、上ニ吐スルノミナラズ、鼻中ヘモ濁涕ヲ出スナリ、凡ソ  
 寒邪ニ中リタル者、コノ病多シ、夕トヒ又中ラザル者ニテ  
 モ、寒氣甚シキ時節ニ、霜雪ヲ衝テ行ク片ハ、必ズ清涕濁涕  
 ヲ出シ、甚シケレバ、食物モ納ラズシテ吐スルナリ、右ノ如  
 ク寒氣ニ犯サレテスラ此ノ如シ、況ンヤ寒氣ニ中リタル  
 者ヲヤ、コレハ吐ト濁涕トノ病状バカリニハ非レ、凡例  
 ノ文ナレバ、主タル肺ノ中寒バカリヲ舉テ示シタルナリ、  
 病者ニ臨ンデハ、種々ノ兼証モアルベシ、ヨク考ベシ、

口肝中風者、頭目瞶、兩股痛、行常偃、令人嗜甘、  
 肝ハ右ノ股ニアリテ、血分ヲ主ル藏ニシテ、其部属ハ、一身  
 ノ筋膜ナレバ、中風ニテ其部位ヲ動揺スルト、陽証ユエ先  
 第一ニ頭上ノ処、面部目ノ部等ノ筋、動揺シテ、頭目瞶スル  
 ナリ、瞶ハビククト動クヲ云、サテ肝ハ經絡ニアリテハ、兩  
 ノ股腹ヲメグル故ニ、其筋ノ血、牽急シテ兩股痛ナリ、コレ  
 モ左右ノ部位ニテ、治方ヲ異ニス、兩股ハ古訓ノ部位ハ、少  
 陽ナリ、左ハ柴胡部類ノ証、右ハ當歸芍藥湯ノ証ナリ、右ノ  
 如ク筋膜ニ衰ヲ生ジタル故ニ、筋牽拘急シテ、歩行スル片  
 ハ、常ニ偃スト云テ、腰ヲカバメテ、背虫ノ如クニナルナリ、  
 コレ筋膜ノ動揺シテ、此ノ如クニナリタル証故ニ、甘キ物

ヲ食スレバ、其血ノ拘牽、少シ快ク覺ユルヲ以テ、甘ヲ嗜ム  
 ナリ、故ニ使人嗜甘ト云リ、素問風論曰、肝風之状、多汗、惡風、  
 善悲、色微蒼、嗌乾、善怒、時憎女子、診在目下、其色青トアリ、コ  
 レ心、上ニ肺ノ中風ノ風論ヲ示シタル如ク、病状ハ種々ニ  
 變化スレバ、其時ニ臨ンデ、處置スベキ者ナリ、コレ心氣道  
 ニシテ陽証ナリ、

□肝中寒者、兩臂不舉、舌本燥、喜大息、胸中痛、不得轉側、食則  
 吐而汗出也、脉經、千金云、時盜汗、欬、食已吐其汁、

コレ心肝ノ中寒ニシテ、陰分血道ノ衰ナリ、サテ陽氣筋膜  
 ヲ行ラズシテ、血不順ナル片ハ、兩臂ヲ舉ルコト能ハズ、又舌  
 ハ第一筋膜メグリテ、滋潤ヲ得テヨク言ヌ者ナルニ、今胸

中ノ氣、急迫シ、痛テ不能轉側、位ニ、筋膜ノ運用ヲ失ヒタル  
 者ナレバ、血必ズ滋潤ヲ失テ、舌本燥キ且ツ胸中ノ氣、急迫  
 シテ少氣トナリ、喜テ大息スルナリ、コレ胸中モ脈モ皆拘  
 牽スル迄ニハ至ラサレバ、筋膜ノ往来自由ナラザル故ニ、  
 胸中痛、不得轉側ナリ、コレ皆寒氣ノ為ニ、水血ヲ閉ラレテ、  
 筋膜ノ屈伸、不自由ナルヨリ起レリ、右ノ如ク胸中痛ム故  
 ニ、食氣下ラズシテ吐ス、吐スル片ハ、上バカリニアラズ、吐  
 スルニツレテ、外表マデ迫リテ、汗出ナリ、脉經并ニ千金方  
 ニハ、時ニ盜汗出テ、欬ヲナシ、胸中ノ氣ノ鬱滯スルヨリ、食  
 シテモ、食物ハ胸ニタマリテ、吐セザレバ、其汁ト食汁ノミ  
 ヲ吐スルナリ、コレヲ以テ、其胸中ノ疏通セザルヲ察スベ

シ故ニ喜大息不得轉側ニ至ルナリ、按ニ脉經云、肝中寒者、其人洗々惡寒、翕々發熱、面翕然赤、熱々有汗、胸中煩熱、  
○肝着、其人常欲蹈其胸上、先未苦時、但欲飲熱、旋復花湯主之、

コレ本条ニシテ、肝着ト云病名ヲ掲ケテ、旋復花湯ヲ繫キタリ、サテ肝着病ヲダンク考ルニ、コノ人元來何事ニヨラズ、昼夜寢食ヲ忘レテ、夕バ自分ノ功名ノ為ニ、心ヲ碎キ身ヲ勤テヨリ、一身ノ気血十分凝滯シテ、肝ノ部属ノ筋膜牽急シ、心胸脊推ヘ堅凝スル者ナリ、コレ肝着ノ二字ニテ、其主意ヲ得ルヤウニ示シタルナリ、サテ其人ト置キタレバ、以下ノ病状ハ、急度目當ニアラズ、夕バコノ病状ニテ、肝着

ノ真面目ヲ察スル様ニトナリ、コノ人十分ニ気血凝リテ、胸中脊推、皆束縛セラレタル様ニナリテ、常ニ胸上ヲ踏テホシガルナリ、コレ凝結ノ甚シキヲ以テ、撫摩スル位ニテハ、一向キカヌ故ニ、伏卧シテ、背上一人ヲ乗セテ、踏シメ、又ハ棒ノ類ニテ、扣キ、柱ニヨリテ、背ヲ推ス等ノ事、皆コノ欲踏其胸上ノ一句ニコモレリ、コレ形神共ニ疲勞スベキ程ノ事ナレ、凡我慢ト魂氣ノ強キトニテ、大ニ疲勞セヌシテ、氣ノ凝リタル証ナリ、故ニ内ハ津液滋潤ナク、口舌胸中乾渴シ、陽氣モ俱ニ凝結シテ、宣ビザルガ故ニ、一身ヲ束縛セラレタルヤウニナラントスル時ニ、渴ヲ發シテ、至テ熱飲ヲ好ムナリ、コレ冷飲ハ、心胸ニ滯ルヤウニ覺ユル故ニ、熱

ヲ以テ、心胸中ノ血ノ不順ヲ推シ開シト欲スルナリ、コレ  
等ハ癰瘰ト云者ニ、大ニマギラハシキ者ナリ、サテコノ旋  
復花湯ハ、方名ノミニテ、藥味ヲ載セズ、林億等ノ説ニハ、諸  
書ニ載ル旋復花湯方皆同トアリテ、一向決定セズ、論註ノ  
説ニハ、與ノ婦人病篇ニアル旋復花湯トアレ、コレハ旋  
復花ト、葱ト、新絳トノ三味ニシテ、ナカクコノ凝結ノ解散  
スベキ藥ニハ、アラザルヤウニ思ハルレ、凡、胸痺ノ枯萎薤  
白白酒湯ノ意ヲ以テ見レバ、中ラズトモ云ガタシ、又胸中  
ニ水血ノ凝結ノ強キヲ開クカアレバ、又經篇ニアル旋復  
代赭石湯ノ証カトモ、思ハル、凡、処アリ、故ニ二方共ニ用テ、  
虛実ニヨリテ、當不當アルベシ、ヨク考テ用ユベシ、サテ

コ、ニ肝着ハ拳タレ、凡、始ノ肺ニハ本条ナシ、コレハ已ニ  
肺痿肺癰肺脹病篇ニ、肺ノ病状ノ變化ヲ尽シタレバナリ、  
胸痺病篇ニモ、肺ノ痺スル者多シ、ヨク考フベシ、着ノ字  
ノ意ハ、論註曰、中於物而不散、附于物而不去之義也トアリ、  
コレ物ニ附着シテ散去ズ、凝リカタマリタルヲ云リ、常欲  
踏其胸上者、胸脹鬱悶格塞、喜踴躍、以振動之也トアリ、コノ  
病人ヲ見ルニ、自身ニ覺エズ身振シ、手舞足踏シテ、胸中ノ  
鬱悶ヲ和散セントスルナリ、世上ニ徃々アル病証ナリ、皆  
長病ニテ全快シ難キ者ナリ、

口中風者、翁々發熱、不能起、心中飢、食即嘔吐、

夫レ心ハ胸中ニ位シテ、其部属ハ一身ノ血脉ナリ、サテ翁

々發熱スルハ、中風ノ惣病ナリ、不能起ハ、胸中ノ氣動躍シテ、起坐ニ堪ガタキナリ、嗜卧ハ、横寐ヲ欲スル形状ナリ、不能起ハ、卧スヲ嗜ムニハアラザレバ、起ント欲シテ、能ハザルノ形状ナリ、コレ心胸中ニカタク、心氣動キ迫リ、且一身發熱スル故ナリ、其上ニ食シタラバ、精力ノ付クヤウニ覺ユル故ニ、食スレバ、心胸ノ氣疎通セザルヲ以テ、直ニ其食ヲ嘔吐スルナリ、コノ証外邪ノ動搖ニヨリテ、心胸中ニ寢ヲ生ジタル者ニシテ、厥陰篇ノ若食入口即吐ス、干姜黃連黃芩人參湯ノ証ニ似テ、翁々發熱ヲ帶ビタル者ナリ、心中飢ト云ハ、實ニ飢ルニハ非レバ、心ノ内ニ物ヲ食シタク思フト云フヲ、示シタルナリ、医宗金鑑ニハ、コノ条文義不

屬、脱文ナラシト云リ、文義ハサモアラバアレ、病状全キ様ニ思ヘリ、識者コレヲ察セヨ、素問風論曰、心風之状、多汗、惡風、焦絕、善怒、嚇、赤色、病甚則言不可快、診在口、其色赤トアリ、焦絕ハ唇焦レテ、津液絶ルト云説アリ、又馬玄臺ノ註證、發微ニハ、心受邪、正在中、故上中下三焦之氣、外降、頗難、而似有阻絶ト云リ、火乱火盛、善怒、嚇人、其色當赤也ト云リ、コレ亦併セ考フベシ、

口中寒者、其人苦病心、如噉蒜状、劇者心痛徹背、々痛徹心、譬如蠱注、其脉浮者、自吐乃愈、

サテ心ノ寒ニ中リタル者ハ、陽氣布ズシテ、水血心中ニ凝結ス、故ニ心痛ノ甚シキニ至レバ、背マデモ貫徹スルニ至



ル其病心ノ言フニ言レヌ痛ノヤウスヲ示シテ如噉蒜状  
ト云リ蒜ハニシニクナリガリクト音ノアル物故ニ其病  
心ノ痛ヲ形容シタルナリ其人トアルハ痛ノ背ニ貫徹ス  
ルハコノ中寒ノミニ限ラズ己ニ前篇ノ胸痺心痛病ノ烏  
頭赤石脂丸ニモアレバナリ其痛ノ背心ニ貫キ起伏スル  
所ヲ譬如蠱注ト云リコノ蠱注ヲ論注ニハ如虫之注綿々  
不已トアリテ一通リノ蛇虫ノ注徹スルト云意ニ見タリ  
コノ説シカラズソレ蠱トハ虫ヲ多ク一器ニ集テ置ケバ  
互ニ相噉食スダシク噉食シテ後ニ残りタル一虫ヲ人ニ  
与エテ其人ヲ殺スコトアリコレヲ蠱毒ト云コレ残りタル  
一虫ハ多虫ノ毒氣ヲ集メ貯ヘテ至テ毒多キナリ其毒ニ

中リテ心中ノ悶乱スル形状ニ似タルヲ以テ蠱注ノ如シ  
ト云タルナリ漢ノ戾太子ノ巫蠱ノ事等ヲ考ヘ見ルベシ  
タバ夷ノ心中ニ注ギ入ルガ如キニハアラジト思ヘテ其  
脉ノ浮ナル者ハ十分内ニ寒凝セザル者ユエ自ラ吐シテ  
愈ルコトアリ若浮ナラザル者ハ愈ザルナリ按ズルニ大成  
論曰蠱之為毒医書所載雖有數種而中土少見之今古相傳  
多是閩廣深山之人於端午日以蛇虺蜈蚣蝦蟆三物同器貯  
之聽其互相食啖候一物獨存者則謂之蠱欲害其人密取其  
毒於酒食中啖之若中其毒者令人心腹絞痛如有虫咬吐下  
血皆如爛肉若不即治食人五藏即死然此毒中人者有緩有急  
急則十數日便死緩者待以歲月氣力羸敗食盡五藏而後死

死則其毒流注於傍人、成蓋注トアリ、コノ説可ナルベシ、  
論注其外ノ説ハ、取り用上ベカラズ、

口心傷者、其人勞倦、即頭面赤而下重、心中痛而自煩、發熱、當  
臍跳、其脈弦、此為心藏傷所致也、

コノ条、并ニ次ノ条ハ、外四藏ノ風寒ノ列ニハアラザレド、  
心ハ君主ノ官トモ、素問ニ云タレバ、其心藏ニ預ル病ヲ舉  
ゲ示シテ、四藏ヨリモ、大ニ太切ニスヘキヲ知ラシメタ  
ルナリ、サテ心傷トハ、一切ノ事ニ、心氣ヲ使フテ、案ジ過シ  
ヲスル、心疾ト云コレナリ、傷トハサツハリト、毀傷シタル  
ニハアラズ、心氣ノ不順ニヨリテ、心中ニ迫リテ、氣ノ勞レ  
タルナリ、其人勞倦トハ、物事ニ退屈シテ、ワツカノヲニモ

勞ル、ナリ、其人トアルハ、心傷ノ者ノ、ニ勞倦スルニアラ  
ザル故ナリ、右ノ如クワツカノヲニモ勞倦シテ、直ニ頭面  
赤而下重スルナリ、コレ心氣力ナクシテ、動テ上衝スル故、  
頭面赤クナリ、腰ヨリ下ハカナクシテ、タルク重クナル故、  
ニ、下重ト云リ、イツレ氣ノ上ツリニナルヨリ、下ノ方ノメ  
グリノアシキナリ、内經ニモ、愁憂恐懼、則傷心トアリ、又悲  
哀愁憂、則心動トアリテ、平生ニモ、氣ニハツト思フコトアル  
片ハ、必ズ頭面赤クナリ、腋下ニ汗ヲ生ジ、上ニ氣逆上衝ス  
レバ、下部ハ必ズ重クナルナリ、其上ニ氣心胸中ニ迫リ滯  
ル故ニ、心中痛而自煩ト、ジントク一身ニクワツト熱出ル  
ナリ、コレ皆勞倦ニテ、此ノ如クニナルハ、心氣ノ傷子タル

人ナリ、當<sub>レ</sub>臍<sub>ニ</sub>跳ト云ハ、上ニ此ノ如キ迫リアリテ、心<sub>ノ</sub>力  
ナキ証ナレバ、人ノ臍中ニアリテ、命根トスル腎間ノ動  
気、忽チ動躍シテ手ニ応ジ、病人モ其動キヲ覺ルナリ、<sub>レ</sub>ノ  
腎間ノ動気ノ一ハ、口傳アリテ、コノ診察ハ至テ大事ナリ、  
書ニ筆スベキコトニアラザレバ、別傳ヲ以テ人ニ教諭スル  
ナリ、コノ當<sub>レ</sub>臍<sub>ニ</sub>跳ト云コトヲ、古ヨリ腎間ノ動気ノ一ニ見タ  
ル説ナシ、至テ秘説ナレバ、コノ一言ニテ、トクト合點スル  
人モアランカト思テ、説キ示スナリ、委キコトハ医学警悟脈  
候辨ニアリ、其脈弦ハ、前篇ノ失精ノ凡例ニアル、革脈ノ弦  
ナルト同シコトニテ、中ニテ引パリテ、底ト上トニ力ナク、弓  
弦ヲ按スガ如キ脈ナリ、コレ心中ニ力ナクシテ、其部位ニ

神居車

神居車

氣マスキ迫リ痛テ、自ラ煩スル証ナレバ、実証ノ弦ニアラ  
ザルコトヲ察スベシ、右ノ如ク種々ノ病状ハアレバ、心藏ノ  
傷レヨリ生ズルナリ、故ニ此<sub>ヲ</sub>為<sub>ス</sub>心藏傷<sub>ノ</sub>所致<sub>ス</sub>也ト云リ、  
口邪哭、使魂魄不安者、血氣少也、血氣少者、属於心、心氣虚者、  
其人則畏、合目欲眠、夢遠行而精神離散、魂魄妄行、陰氣衰者、  
為癲、陽氣衰者為狂、  
ソレ心ハ靈ノ根本ニシテ、神ノ舍ル処ナリ、餘ノ四藏モ亦  
各其靈ヲ藏ストイヘバ、心灵ノ神ニ回テ、精魂魄意ノ四灵  
モ、各其処ニ安ンジテ、其妙用ヲナスナリ、若シ心灵ニ變動  
アリテ、神ソノ舍ヲ守ラザルハ、四灵モ俱ニ其処ニ安ン  
ゼザルナリ、上ノ条ハ、心ノ劳疲傷敗シタル者ナレバ、精神

ハ其処ニアリテ、夕、平生ノ如ク、會通順接セズシテ、病ヲ  
生ズルノミナリ、故ニ自分ニ病状モ説キ、苦痛スル所モ、問  
テ知ラル、ナリ、コノ条ハ、乱心ユエニ、言語モ不通、理義モ  
ワカラズシテ、一通リノ病証トハ大ニ異ナリ、コノ処ヲヨ  
クク診別シテ、其証ヲ明カニスベシ、サテ邪哭トハ、哀シム  
ベキトニアラザルニ、嗔ヲ揚テ泣ク云、邪ノ字ハ理義ノ道  
筋ニハツレタル意ナリ、喜怒哀樂スベキトニ當リテスル  
ハ、理ノ當然ナレ、凡ソレニ反シテ、故ナクシテ、嗔ヲアゲテ  
泣キ哀シムヲ、邪哭ト云ナリ、コレハ哭シテ、其哭スル所以  
ノナキ者故ニ、他人ヨリ見ル所ハ、オカシキ様ニ思ハルレ  
凡、病者ハ実ニ真情ヨリ哭スルニヨリテ、魂魄俱ニ安カラ

言傳

示原車

ザルナリ、按ズルニ説文ニ、魂、陽氣也、魄、陰神也、又魂者、神也、  
陽也、氣也、魄者、精也、陰也、形也、魂、飪於天、魄、復於地、淮南  
子、天氣為魂、地氣為魄、トアリテ、コノ魂ハ、今日活テ居ル温  
暖ノ氣ヲ始トシテ、昼夜鼻ヨリ通ジテ、息ザル所ノ天ト通  
ズル所ノ氣ヲ云ナリ、魄ハ、口ヨリ入ル所ノ食味ヲ以テ、養  
培長育シテ、初生ヨリ老成マテニ、仕立上ル所ノコノ形体  
ヲ始トシテ、血分ノ精液マデ、皆目ニ見ルベキ物ヲ云、魂ハ  
肺ニ藏レ、魄ハ肝ニ藏ル、ナリ、古人ノ傳説ニハ、肝ハ魂ヲ  
藏シ、肺ハ魄ヲ藏スト云来レ、凡、肺ハ一身ノ氣道ヲ主リテ、  
鼻ニ通ズル所ノ天氣ノ入ニ、舍リテ陽氣トナル、其根本ノ  
魂ヲ藏スノ処ナリ、魄ハ形アリテ血分ニシテ、口ヨリ入ル

古川醫傳

士

現刊

可ノ脾胃ノ精汁ヨリ生ズル血ヲ始メ、ソレニテ成長スル  
 可ノ形骸ナレバ、肝ハ血ヲ藏スヲ以テ、魄ハ肝ニ藏ルハナ  
 リ、コレラハ無用ノ辨ナレ、序ニコ、ニ示スナリ、サテ神  
 氣舎ヲ守ラス、邪哭シテ、魂魄ノ夕マシ井モ、カラダモ、安カ  
 ラズシテ、故ナキニ驚動哭泣スル者ハ、血氣ノ少ナル也ト  
 云リ、コノ少ノ字ハ、スクナキト云意ノミニアラス、コレハ  
 少氣ト云テ、氣ノ縮約シテ、引レマ、ルヤウナル心持ノ、少ノ  
 字ト同ジ義ニシテ、血氣チ、ミ引レマ、リテ、心ノ部位ニ、聚  
 歛縮約スルナリ、其血脈ハ、心ノ部属ニシテ、心氣ノ令ヲ以  
 テ、一身ニ暢ビ達スル者ナルニ、今聚縮シテ血氣ノ少ナル  
 ハ、心ノ部位ノ親令失シテ、血氣皆心中ニ迫縮シテ宣ガル

ナリ、故ニ血氣少者、属於心ト云リ、コレハ上ノ心傷トハ異  
 ニシテ、心氣ノ虚シタルナリ、心氣虚スル者ハ、神モ亦怯シ  
 テ、一切ノ事ニ恐懼スルナリ、故ニ其人則畏ト云リ、コノ其  
 人ノ字モ、外ニ畏ル、證アレバナリ、サテ又心氣鬱閉シテ、  
 精神昏暗ナルガ故ニ、合目欲眠スルトキハ、神氣静定ナラ  
 ガル故ニ、直ニ夢ヲミル、其夢ニ遠行トテ、トツケモナキ、  
 ニ至リテ、精神共ニ離散シ、魂魄モ亦妄行ス、コレ精ハ腎ノ  
 靈、神ハ心ノ靈、魂魄ハ肺肝ノ靈タルヲハ、上ニ説クガ如シ、  
 コレ乱心デナキ、平生ノ人ニテモ、イロク世上ノ事ニ、辛苦  
 艱難シテ、思慮ヲ費ス者ハ、寐テ眠ル片ハ、夢中ニ遠方ニ往  
 キ、其外サマ、グノ一ヲミルナリ、コレ物思ヒノミニテ、乱心

二至ラザル者スラ、猶此ノ如シ、況ヤ精神離散シ、魂魄妄行  
 スル者ヲヤ、凡ソ乱心シテ、狂言妄動スル者ヲ見ルニ、皆血  
 気ノ縮ンデ、心中ニ迫リタル者ナリ、コレニ陰陽ノ別アリ、  
 陰気衰者、為癲ト云リ、癲トハ、乍ニ暈倒シテ、人事ヲ省セズ、  
 精神共ニ昏冒スル者ナリ、コレハ陰気ノ血分衰テ、陽気獨  
 盛ニシテ、上突スルヨリ、乍ニ心気昏冒シテ、コレノ癲癩ノ証  
 ヲ發スルナリ、陽気衰者、為狂トハ、陽気ノ衰ル者ハ、陰気ノ  
 勝ツ者ナリ、陰気勝ツ者ハ、血気熱ヲ帶テ、陽虛ノ部ヲ犯ス  
 ヲ以テ、体ハ顛倒セザレバ、心神乱レテ、舎ヲ守ラザル故ニ、  
 狂乱ヲナスナリ、癲ハ一旦顛倒シテモ、治ルトキハ神氣爽  
 快ナリ、狂ハ体ノ起居動作ハ、常ヨリモ輕ケレバ、精神舎ヲ

守ラズ、茫然トシテ、訣ノナキヲ語り、或ハ話シヲシテモ、  
 自心モ何ヤラン知ラザル者ナリ、コレハ皆心ニ属スル病  
 ニシテ、癲狂ノ二病ヲ生ズル所以ヲ、説キ示シタル条ナリ、  
 サテ陽気勝者ト云ズシテ、陰気衰ト云、陰気勝者ト云ズシ  
 テ、陽気衰ト云タルハ、文ヲ互ニシテ示シタルノミナラズ、  
 陰気衰ト云タル中ニ、下部ニカナクシテ、孤陽上迫ノ意ヲ  
 含テ、陽気ノタシカニ、実シタルニアラザルヲ示シ、陽気衰  
 ト云タル中ニ、气道衰エ、陰血熱ヲ釀シテ、心中ニ上迫シテ、  
 狂ヲナスヲ示シタリ、コレ癲狂ノ二病ハ、同ク心ニアツカ  
 ル証ナレバ、癲ハ形ニ属シ、狂ハ神ニ属ス、神ニ属スル者ハ、  
 形ヲ泻スベキナリ、形ニ属スル者ハ、神ヲ開達スベキナリ、

然レ凡コノ中ニ塵実アレバ、一涯ニ論定シ難シ、両方共ニ  
 攻撃ヲ用ルアリ、又救知ヲ投ズルアリ、コレハ其病者ノ宿  
 ニヨリテ差別アレバ、ヨク工夫シテ、病情ヲ洞明スベシ、  
 口脾中風者、翕々発熱、形如醉人、腹中煩重、皮肉瞶々、而短気  
 コレ外邪脾気ヲ動揺スルヨリ、一身ノ肉分ニ气和セズシ  
 テ、翕々発熱スルナリ、サテ翕々発熱ニ各差別アリ、心中風  
 ノ翕々発熱ハ、心胸ノ気動揺シテ、上ズリニナルヨリ、翕々  
 トテクハツクト熱シテ、心中其熱ニ薰蒸セラル、勢アリ、  
 コノ翕々発熱ハ、一身ノ肉分ニ熱ヲ貯エテ、表ニ向テ翕々  
 タルナリ、又経篇ノ太陽中風ノ翕々発熱ハ、太陽ノ部位ニ、  
 気動揺シテ、一身ノ表外ノ処翕々タルナリ、コレ皆同ジ翕

々発熱ナレ凡、各部位ニヨリテ差別アリ、差別ハアレ凡、中  
 風ノ動揺スル所ハ一ナリ、桂枝去桂加苓朮湯ノ翕々発熱  
 モ、コレニ準ジテ發明スベシ、サテ其翕々発熱スル位、肉中  
 ニ寢アル証ナレバ、其形酒氣ニ侵サレタル、醉人ノ如シ、脾  
 ハ肌肉ヲ部属トストイヘ凡、腹中ニ部位アレバ、腹中煩重  
 スルナリ、右ノ如ク肉中ノ气和セズシテ、ソレガ為ニ水血  
 モ肉中ニ動揺スル故ニ、皮肉瞶々トテ、ビククシテ、腹中煩  
 重ノ勢ノ餘リ、心胸マデモ及テ、短気スルナリ、皮肉ノ皮ノ  
 字ニ別ニ意ハナケレ凡、肉ノ表ハ皮ナレバ、動揺シテ気上  
 外ニ和セザルト、皮モ共ニツラレテ、瞶動スルナリ、按ズ  
 ルニ素問風論曰、脾風之状、多汗、惡風、身体怠惰、四支不欲動、

色薄微黄、不嗜食、診在鼻上、其色黄トアリ、多汗惡風ハ、五藏  
 トモニ外邪ノ侵シ動搖シタル候ナリ、四肢肌肉ハ、脾ノ部  
 属ナレバ、身体怠惰、四支不欲動ハ、皆脾氣ノ衰ヨリシテ生  
 ズル所ナリ、色薄微黄、不嗜食ト云リ、コレ脾氣動搖シテ熱  
 ノ鬱スルヨリ、面色一身微黄トナリ、脾熱上心胸ヲ熏ズル  
 故ニ、不嗜食ナリ、鼻上ノ黄色ナルヲ以テ、脾胃ノ熱ノ外迫  
 スルヲ知ルベシ、サテコレヨリ以下、脾中寒、腎中風、中寒、共  
 ニ脱落スルヲ、林億等カ細注ニ云リ、今他書ニ散在スル  
 ヲ取テ、以テ之ヲ補フ者ナリ、又五藏ノ死脉ヲ一々列セリ、  
 コ、ニアツカラザルヲナレバ、省ヒテ載セズ、読ム者コレ  
 ヲ察セヨ

口脾中寒之状、心腹膜脹、四肢寧急、噎噎不通、藏氣不傳、或秘、  
 或泄、

コノ条ハ三因方ヲ以テ補ヘリ、サテ脾ハ、胃中ノ運行ヲ主  
 リテ、食物ヲ消磨スル役ナリ、其部位寒邪ニ閉塞セラレテ、  
 ノクラザルハ、心胸腹部ノ水食和セズシテ、膜脹スルナ  
 リ、膜ハフクレル形、脹モ外見ノ張テ見ユルヲ云ナリ、コレ  
 内ニ実熱ノアル、陽明病ノ脹滿ニハアラズ、脾氣行ラズシ  
 テ、内陽氣ノ滯ル所アリテ、脹スル者ニシテ、虛寒ノ証ナレ  
 バ、心腹膜脹ト云リ、膜ハ、字彙ニ肉脹起也トアリテ、腹部ハ  
 勿論、心胸一デモ、胃中和セザルヨリ滯ルナリ、又水血心腹  
 ニ滯リテメグラズ、脾ノ部属ノ四肢ヘモ宣ガル故ニ、四肢



言醫傳 卷十七 示別車 痛  
牽急スルナリ、噎噫不通トハ、心腹膜脹スル位ニ、食飲消磨  
セズシテ滞ル、故ニオクビノ出ルヤウニ思ハレ、半ハ出、半  
ハ胸膈ニツマリテ、サツパリト出尽サヌナリ、コレ太陽下  
篇ノ旋復代赭石湯ノ、噎氣除セザル者ニ似テ、其証ハ異ナ  
リ、噎氣除セザルハ、脾胃ニアツカラズシテ、胸膈ヲ主トセ  
リ、コノ証ハ、脾氣運行ヲ失シ、食物消磨セズシテ、胸上マテ  
モ滞リ、噎噫ハ出ツレ、凡サツパリト通セザルナリ、乾噎ノ  
意アリ、字彙ニ、噎音愛、噎氣也トアリ、噎ハ烏懈切、音隘、飽食  
氣滿而有色也、又於禁切、氣出兒トアリ、右ノ如ク心腹ノ衰  
ニテ、食飲上ニ塞リテ噎噫シ、下藏氣傳導セズシテ、大便ノ  
秘スルノモアリ、又下利スルノモアリ、コレ実証ニアラズ

シテ、上部ニ停滞スル故ニ、下部腸胃以下不順ニシテ、大便  
ノ秘泄、イロクニナルナリ、藏氣ハ、陰分血分腹、氣ヲ云也、  
口胃中風、其狀額多汗、食飲不下、隔塞不通、腹善滿、失衣則膜  
脹、張口肩息、心下淡々、食寒則泄、

コノ条ハ、コノ五藏ノ風寒ニハアツカラヌ証ナレ、凡素  
問風論、并ニ三因方ニ并列シアレバ、コノニ奉テ、治療ノ便  
トス、コノ文ハ三因方ニ據レリ、風論ハ、文少シク異ナリ、風  
論ニ曰、胃風之狀、頸多汗、惡風、食飲不下、隔塞不通、腹善滿、失  
衣則膜脹、食寒則泄、診形瘦而腹大トアリ、コレ大意ハ同ク、  
文ノ異ナルノミナリ、互ニ按シテ其証ヲ考フベシ、素問三  
因方共ニ、胃ノ中風ノミアリテ、他ノ府ニ及バザル者ハ、胃

ハ後天ノ養ヲ致ス所ノ、飲食ノ大海ニシテ、五灵ノ妙用ヲ  
モ、コノ府ヨリ培養スル故ナルベシ、サテ胃ノ中風ハ、陽明  
ノ中風トハ、大ニ異ニシテ、外邪ノ動搖ニヨリテ、胃氣脾氣  
ト共ニ動突シテ、頭汗出テ、胸中隔塞ス、故ニ素問ニ頸ニ汗  
多ト云、三因方ニハ額多汗ト云リ、皆頭汗ノ出ル形状ナリ、  
外邪ニヨリテ、外皮表和セザル故ニ、惡風アリ、胃氣メグラ  
ズシテ、胸ニ上リ迫ル、故ニ食飲下ラズ、胸膈塞テ通セズ、腹  
部ノ氣モ動搖スレ、疝、實熱ニアラザル故ニ、腹善滿ト云リ、  
善滿トハ、病者ノ心ニ、エヨコク腹滿スルヲ覺ユルナリ、然  
レ、疝衣ヲ去リテ、腹ノ形状ヲ見レバ、始終フクレテ脹スル  
ナリ、故ニ失衣則腹脹ト云リ、滿ト腹脹トノ差別、コニエテ

ヨク辨明スベシ、コノ張<sup>テ</sup>、口<sup>ラ</sup>肩息ノ語、素問ニハナシ、コレハ  
食飲下ラズ、隔塞通ゼザル所ヨリ、胃中ノ氣、マスキ胸中ニ  
迫リテ、短氣促迫スル者ノ形状ナリ、其上ニ上、咽喉マデモ、  
水飲迫ル故ニ、口中何トナク水臭ク思フナリ、故ニ心下淡  
々ト云リ、コノ語モ、素問ニハナシ、胃中ノ陽氣、胸膈ニ上  
リ迫リテ下ラズ、胃中力ナキ故ニ、寒冷ノ物ヲ食スレバ、泄  
利スルナリ、故ニ食寒則泄ト云リ、コレ外邪ノ為ニ、胃氣上  
ヅリニナリテ、胃中ノ陽氣ノ力ナキ証ナリ、故ニ診形瘦而  
腹大ト云リ、コノ語三因方ニナク、素問バカリニアリ、コレ  
胃氣力ナク、一身ヤセテ、腹ノミ大ナルナリ、失衣則腹脹ス  
ト云語ト相映ジテ、コノ形状ヲ察スベシ、

○跌陽脈浮而瀦、浮則胃氣強、瀦則小便數、浮瀦相搏、大便則堅、其脾為約、麻子仁丸主之。

コノ条ハ、己ニ陽明篇ニ於テコレヲ辨セリ、今又コノニア  
ル者ハ、五藏ノ部ノ脾約ノ病ヲ、擧ゲ示サン為ナリ、コレ上  
ノ胃ノ中風ノ氣道ニシテ、陽ナリ府ナリノ中風ニモ、食寒  
則泄スル位、下部ニカ、ノナキ病アリ、コノ条ハ、ソレニ反シ  
テ、大実ノ証マデニハ至ラザレバ、胃氣強クシテ、大便ノ堅  
キ証ヲ示シテ、脾約ノ名ヲ出セリ、陽明篇ノ凡例ニアル、太  
陽陽明ト同証ナリ、餘ハ經篇ノ辨明ヲ以テ、コノ条ヲ解ス  
ヘシ、サテコノ篇ニ、肝着、脾約、腎着ノ三病ノミヲ、本条ニア  
ゲテ、肺心ノ二藏ノ病ナシ、然レバ肺ハ己ニ前篇ニ、肺痿肺

瘵、肺脹ノ本篇アリ、心モ亦胸痺心痛ノ本篇アレバ、コノニ  
贅セサルナリ、コノ意ヲ以テ、前篇トモ併セ考フベシ、コノ  
条ハ、經篇ニモアレバ、コノ外ニモ、經篇ニアル条ヲ再出セ  
リ、コレ經緯ノ部位ト、病形トヲ併セ示シテ、變化ノ常ナラ  
ザルヲ論サンカ為ナリ、ヨク工夫シテ読ムベシ、  
口腎中風之状、多汗、惡風、色如焔、面瘡然、浮腫、腰脊痛、引小腹、  
隱曲不利、昏寢、汗愈多、志意惶惑、診在耳、其色黑、

コノ条モ亦三因方ヲ以テ補ヘリ、素問ノ風論ノ文トハ、少  
シク異ナリ、風論ニ曰、腎風之状、多汗、惡風、面瘡然、浮腫、脊痛、  
不能正立、其色焔、隱曲不利、診在肌上、其色黑トアリ、互ニ發  
明シテ其証ヲ辨スベシ、コノ条ハ元ト外邪ノ動搖ヨリ、表

氣和セズ、水気上逆スル故ニ、汗多シ、惡風ハ中風ノ候ナリ、  
 水気上表ニ動揺スル故ニ、面瘡然トシテ腫レ浮ブナリ、瘡  
 ハ危ナリ、危ハ、ムク犬ノ一ニシテ、其フツクリトシタル形  
 状ヲ、浮腫ノ状ニ取りタルナリ、腰脊痛、引小腹ハ、腰ハ腎ノ  
 府ト、脉要精微論ニアリ、小腹モ亦腎ノ部属タレバ、腎気外  
 邪ニ動揺セラレテ、其部位ノ腰、并ニ脊骨、俱ニ痛テ小腹ニ  
 ヒキツルナリ、素問ニハ脊痛、不能正立ト云リ、コレ脊痛ニ、  
 腰曲リテ、正ク立ツヲ能ハザル者ハ、小腹ノ引痛スルヲ、其  
 中ニコモレリ、素問ニハコノ次ニ其色焔トアリ、三因方ニ  
 ハ多汗惡風ノ下ニ、色如焔トアリ、コレ面ノ浮腫シヨゴレ  
 テ、焔煤ヲ又リタル如キ者ナレバ、始ニアル方穩カナリ、サ

テ又腰脊痛、引小腹、隱曲不利トアル三因方ノ文、大ニ好シ、  
 腰又ハ脊推ノ痛人、小腹ニ引ク者ハ、素問ノ正立スルヲ能  
 ハザル者ニシテ、其腰脊小腹トモニ、痛ニ曲リテ、屈伸不自  
 在ナリ、故ニ隱曲不利ト云リ、昏冒シテ心気爽カナラス、頻  
 リニ睡眠ヲナスト、汗愈多ク出ツ、故ニ昏寢汗愈多ト云リ、  
 此ノ如ク昏寢トテ、神気モ共ニウツトリトシ志意惶惑ト  
 テ、一切ノ事ニ惶レ惑フテ、物事ノ理義モ不分明ニナリ、志  
 意茫然トシテ、トラマエ処ノナキ様ニナルナリ、診在耳ト  
 云ト、診在肌上ト云ト、大ニ部位違ヘリ、在耳ト云ハ、内經ノ  
 配當ニ、腎ハ竅ヲ耳ニ開クト云タレバ、コレハ古人ノ傳説  
 ニシテ、實説ニアラズ、在肌上ト云ハ、中風ノ為ニ、腎ヲ動揺

セラレテ、面色ノ始ケタルヨリ考テ、一身ノ肌膚ノ色、黒色ナルベシト、推察シテ筆セシヤウナリ、俱ニ穩カナラズ、腎ハ竅ヲ二陰ニ開クガ正當ナレバ、コノ証ハ小便頻數ナルカ、又ハ時々遺失スベキ者ナリ、然レ、凡黒トアルニテ、面色一切ノ黒キニ取リテモ可ナリト云ベキカ、シカシコ、ニ余ガ説アリ、腎ノ色ノ黒キハ、五色ノ正當ノ色ナリ、病ニ臨ンデハ、黒色ヲ以テ、腎ノ部位ニ變動アリト云、皆強合配當ノ説ニシテ、所謂理屈解シナリ、六節藏象論ニ、五藏ノ五色ニアラハレタル、診察ノ法アリテ、面ハ心ノ榮、面色ノ赤キハ、心ノ色、皮毛ハ肺ノ華、其皮毛ノ青キハ、肺ノ色、腎ノ華ハ髮ナリ、髮ノ黒キハ腎ノ色、爪ハ筋膜ノ餘、其白キハ肝ノ

色、肌肉ハ脾ノ華、其黄ナルハ、脾ノ色ト云、ハ、五色ノ上ニ頭ハル、正真ノ色ヲ示シタルナリ、ソレニ解剖シテ、死人ノ五藏ノ色ヲ穿鑿シ、又ハ病ヲ得ルニ當リテ、病色ヲ以テ、五藏ノ診候トスル、皆古今愚者ノ蔽ニシテ、年ヲ隔テ世ヲ去テ、惟言語文字ニノミ傳來シテ、終ニ套語トナリ、文学者流、又ハ医術ニ骨ヲ折ラザル、医書読医者ノ口實ニナリテ、今日目ノ前ノ病人ニ、當ラザル、ハ知ラズ、タゞ胸臆ヲ以テ皆推察シテ、治療ヲスルノ逃、口上ノ資トナルバカリナリ、病者ノ色ノ五色ハ、決シテ五藏ノ正色ニ非レバ、コレヲノ言語ニ、惑ハサル、ナカレ、

口腎中寒之状、色黒、気弱、吸々少気、耳聲、腰痛、膝下清、拘牽而

疼昏不知人

コレ亦三因方ヲ以テ新補セリ、コ、ノ色ノ黒キモ、前条ニ  
説クガ如シ、気弱ト云ハ、腎ノ部位ヲ、虚寒ノ為ニ犯サレテ、  
陽氣乏シキ証ナレバ、陽氣モヨハク、其人ノ氣勢モ弱ク、大  
ニ疲労シテ見ユルナリ、故ニ吸々少気トテ、氣ヲ胸ニ閉テ、  
急迫少気シテ、内ヘバカリ引コムヤウニナルナリ、耳聲ノ  
証ハ、コ、ニアタラズ、虚寒ノ症ニ耳聲スル、ハ、一向義理  
ニアタラズ、熱気ノ上逆、又ハ一切毒ノ上衝、又ハ心気ヲ大  
ニ勞シテ、氣逆スルカ、耳中ニ物ノコダハリテカヨリスル  
者ニシテ、虚寒ノ者ノ、俄ニ耳聲スル、ナシ、若シコノ証ニ、  
耳ノ聲スル、アラバ、其人ノ宿カ、又ハ他ノ病ヲ添エタル

者ナリ、コレハ昏、不知人ト云迄ニ、虚寒腎ノ部ヲ寒凝シタ  
ル故ニ、耳ハ聾セザレバ、少シモ聞エザル者ハ、沢山アル、  
ナリ、此ノ如クニ昏冒ノ病人ナレバ、湯浴等モセザル故ニ、  
色ノ黒キハ病ニアラズ、垢穢ノ面上肌膚ニアルナラン、腰  
痛、膝下澆、拘挛而疼ハ、腰膝ハ腎ノ部属ナレバ、虚寒凝結シ  
テ、陽氣不順ナル故ナリ、甚シキニ至レバ、腰以下不仁シテ、  
大小便モ覺エズ、ソレニツレテ精ノ靈モ、妙用ヲ失シテ、昏  
冒シテ、人ノ見分ケモナクナリ、夕々夢中ノ人ノ如クナル  
者ナリ、コノ条ハ、右ノ意ヲ以テ、病人ニ臨テ工夫スベシ、  
○腎着之病、其人身体重、腰中冷、如坐水中、形如水状、及不渴、  
小便自利、飲食如故、腰以下冷痛、腰重如带五千錢、甘姜苓朮

湯主之、病屬下焦、身勞汗出、衣裏冷湿、久久得之、

コノ条ハ、腎着ト名クル病ヲ奉テ、前ノ肝着脾約ニ對シテ、各五藏ノ部位ニ、寢ズル所アルヲ示シタルナリ、コノ其人ト云タルモ、前ニ同ジ、身体重ハ、コノ病ハ、俗ニ云、ヒエ証ニテ、下部冷テ、一身ノ水氣、スラクト行ラズシテ、滯リヤスキ故ナリ、コレ腎ハ水藏ニシテ、殊ニ下部ニアル故ニ、コレヲ腎着病ト名ク、元來陽氣衰乏シ、水氣流行セズシテ、一身重ク、腰冷テ、中マデモヒヤクスルナリ、其ヒヤクスル血、水中ニ坐スルガ如クニ思フナリ、其上ニ一身ノ水氣滯リテ、浮腫シ、水腫病ノ如シ、故ニ形如水状ト云リ、然レ、凡水腫病ハ、内ノ水氣、外ニ張り出シテ、津液燥ク故ニ、渴スレ、凡コノ腎

着病ハ、陽氣ノ衰乏ヨリ、水氣ノ不順ニナリタル証故ニ、形ハ水氣病ノ如クナレ、凡反テ渴セザルナリ、其上ニ小便モヨク通利シテ、常ノ如ク、胸中ニ寢ナキ故ニ、飲食モ如故ナリ、右ノ如クタゞ、腰冷テ、腰ヨリ以下ノ所、トント陽氣メグラズシテ、冷痛ス、コノ冷痛ハ、至テ寒冷ノ時、手足ナド十分ニ凍返シテ、キリクト痛ム様ニ思フト同ジキナリ、又腰ノ重キヲ、五千錢トハ、錢ナラバ、五貫文バカリヲ、腰ニツケタル様ニ重キナリ、五千錢ハ、我邦ニテ、五貫目バカリノ重サヲ、腰ニ付タル様ニ重シト云意ナリ、コレ陽氣乏ク、水氣ノ不順ヨリ、此ノ如クニ覺ユル者ナレバ、甘艸干姜茯苓白朮木四味ヲ以テ、陽氣ヲ復シ、水氣ヲ通利スルナリ、按ズル

二千金ニ腎着湯ト云方アリ、コノ方ニ、沢瀉桂枝ヲ加エタルナリ、コノ証ノ今一段上逆シテ、水気ノ不順ナルニカ、レリ、以上、凡例、本条、新補、合シテ十六个条、五藏ノ風寒ヲ始トシテ、心ノ癩狂、肝着、又ハ脾約、腎着等ヲ列子テ示シタリ、獨リ肺ニ病名ヲ举ゲザル者ハ、前ニ云如ク、肺ノ本篇、肺痿肺癰肺脹ニ示シタレバナリ、

口問曰、三焦竭部、上焦竭、善噫、何謂也、師曰、上焦受中焦氣、未和不能消穀、故能噫耳、下焦竭、即遺溺失便、其氣不和、不能自禁制、不須治、久則愈、

コレ前ノ細注ノ、病属下焦、身勞汗出、衣裏冷湿、久々得之ト云ヲ受テ、コノ三焦ノ竭部ヲ問答セリ、コレ上ノ甘姜苓朮

湯ノ証ニ、遺溺失便ノ治ヲ主ル者アレバナリ、サテ太陽下篇ノ、婦人傷寒ノ条ニ説キタルガ如ク、靈蘭秘典論ヲ以テ據トスベシ、三焦ハ、共ニ水道ニシテ、水穀ノ精液ヲ轉輸スル官ナリ、三焦ノ竭部ト云ハ、上中下俱ニ流行セズシテ、精液水道ノ利セザルヲ云ナリ、曰テ問ヲ發シテ、三焦竭部ノ中ニ、上焦竭バ、善噫ハ、何ノ謂ソヤト云リ、師ノ答ニ、上焦ハ、中焦ノ水穀ノ精液ヲ受テ、轉輸スル所ノ者ナリ、其中焦ノ氣和セザレバ、胃中ノ穀氣消セズ、故ニ上焦行ラズシテ、チヨコク噫ヲ發スルナリ、コレ皆中焦ノ氣ノ和セザルヨリナス所ナリ、故ニ食氣停滯シ、宿食ノ氣、中焦ニ痞塞シテ、上焦コレガ為ニ、舒快セズシテ噫スルナリ、右ノ如ク中焦和



セズ、水穀停留シテ、上焦不順ニシテ、噫ヲナスニ至ル者ハ、  
 六下焦モ竭テ、下ニメグラズ、下部空虚ニシテ、陽氣ノ補助  
 ナシ、故ニ二便共ニ禁セズシテ、遺尿失便ス、其中焦ノ氣、和  
 セザル故ニ、下部ニ氣メグラズ、自ラ禁制スルヲ能ハザル  
 者ナレバ、中焦ノ氣ノ和スルニ從テ、自ラ愈ルナリ、故ニ不  
 須治、久則愈ト云リ、コレ三焦ノ竭部ハ、中焦竭テ、其氣ノ和  
 セザルヨリ、上下二焦、共ニ竭テ衰ヲ生ジ、上ハ噫シ、下ハ遺  
 溺失便スルナリ、サテ中焦ノ氣、和シテ後モ、遺尿失便ノ止  
 ザル者アリ、コレハ下部ノ陽氣不順ニシテ、水氣ヲ運行サ  
 スルカナク、下冷テ来ル者多シ、其終ニシテ置バ、久シクシ  
 テ、愈ザル者ナリ、コレ上ノ条ノ甘姜苓朮湯カ、又ハ千金ノ

腎着湯ノ証ナリ、余カ家ニ灸治ノ法アリ、コノ外ニ薑朮附  
 子敗醬散ノ証アリ、又家方ニ二味ノ散藥アリ、コノ四方ト、  
 灸治トニテ、治セザル者ナシ、余シバク用テ功アリ、曰テコ  
 、ニ示スナリ、

□師曰、熱在上焦者、因欬為肺痿、熱在中焦者、則為堅、熱在下  
 焦者、則尿血、六令淋秘不通、大腸有寒者、多驚澹、有熱者、便腸  
 垢、小腸有寒者、其人下重便血、有熱者必痔、

コレ又三焦ノ熱ノ變ヲ挙テ、傍ラ大小腸ノ寒熱ニテ、各病  
 証ノ起ル由ヲ示シタルナリ、サテ熱在上焦者、曰欬為肺痿  
 ハ、已ニ肺痿ノ本篇ニ詳カナリ、故ニコ、ニ贅セズ、熱在中  
 焦者ハ、胃中ノ實熱ノ証ナレバ、大便ノ堅キ者ナリ、熱ノ下

焦ニアル者ハ、尿血ノミニアラズ、小便赤濁ニシテ、渋ル者ナリ、又淋瀝シテトント通ゼズ、故ニ令淋秘不通ト云リ、又コレモ大便不通ナリ、コレ三焦ニ熱アリテ、上中下ニ随テ、病状ノ異ナルヲ示シタルナリ、大腸有寒者、多驚澹スト云リ、寒トハ熱ニ對シテ、虛寒冷氣ヲ云、コレ陽氣ノビズシテ、虛寒ナル者ナリ、其証ハ、大便堅カラズシテ、澹スルナリ、驚ハアヒルノコトナリ、コノ鳥ノ大便ハ、常ニシマリナク、水交リニ下ルナリ、故ニ驚澹ト云リ、按ズルニ尸子云、野鴨為鳧、家鴨為鶩、不能飛翔、如庶人、守耕稼而已、余是以知庶人執鶩之義、如此トアリ、又大腸有熱者ハ、同ク澹スルヤウナレ、凡腸垢ヲ下スナリ、利病ノ時、下重シテ腸垢ヲ下スハ、大腸ノ

熱ナリ、腸垢ハ、ナメノコトナリ、又小腸ニ寒冷ヲ含ム者ハ、其人下重便血トテ、イキミ立テ、肛門へ張り出シテ、ソレガ為ニ、大便ト共ニ血ヲ下スナリ、又血バカリ下ル者モアリ、コレ亦陽氣ノ乏キ、虛寒ノ証ナリ、又小腸ニ熱ノアル者ハ、コレ血熱内ニ鬱シテ、血ヲ留メテ、无理ニ肛門ニ滯リテ、痔トナルナリ、コレラハ皆、大体ノ寒熱虛實ニ涉ル所ヲ、説キ示シタルナリ、委クハ三焦ノ処ニ、各虛實ノ別ヲ説リ、痔一病ニモ、五痔脱肛ノ差別アレバ、コトニ示シタルハ、タゞ大体ノミト心得ベキナリ、コレ大小腸共ニ、皆下焦ノ水道ノ利不利寒熱ヲ以テ、各病ヲ生ズル由ヲ演タルナレバ、皆三焦ノ部ニアツカル病ナルコトヲ、ヨクク察スベシ、

口問曰病有積有聚有穀氣何謂也師曰積者藏病也終不移聚者府病也發作有時展轉痛移穀氣者股下痛按之則愈復發為穀氣

コレ積聚穀氣ノ三ヲ示レタル條ナリ積ハ藏病ナレバ血分陰分ノ病ニシテ其所在一定ナレバ深ク内ニ沈ンテ手ニモ當ラザル故ニ次ノ條ニ診脈ノ法ヲ以テ所在ヲ知ルナリ至テ根ザレノ深キ病ナリコレ百合ノ一毒ノ裏内ニ深ク潜ンデ其所在ニ随テ病患ヲナス者ナレバ所ヲ定テ動カザルナリ其動カザルガ藏病ニシテ積ト名クル所以ナリ世上一般コノ三ノ差別ナクシテ一概ニ痛ム所ノ者ヲ積氣ト云傳テコノ藏病ノ積氣ヲ篤ト診シ得タル人稀

ナリ實ニ医風ノ不振ノ至リナリ内經ニ積之始生得寒乃生厥乃成積トアリテ氣血水共ニ寒凝シ陰陽相順接セズシテ厥スレバ積トナルト云リ其厥ノ所在ニ随テ其積ノ形状異ナリコハニ内經ヲ引テ其意ヲ示ス黃帝曰其成積奈何岐伯曰厥氣生足惋々生胫寒胫寒則血脉凝瀆則寒上入于腸胃入于腸胃則膈脹膈脹則膈外之汁沫迫聚不得散日以成積トアリコレ積ノ寒厥ニヨリテ生ズルヲ言タルナリ又曰卒多食飲則膈滿起居不節用力過度則絡脉傷陽絡傷則血外溢血外溢則衄血陰絡傷則血内溢血内溢則後血腸胃之絡傷則脉溢于膈外有寒汁沫与血相搏則併合凝聚不得散而積成矣トアリコレ積ノ血ヨリ生

之テ内ニ溢ル、所ナリ、又曰、卒然、外中、于寒、若内傷、于憂、怒、  
 則気上逆、気上逆、則六輸不通、温気不行、凝血、蘊裏、而不散、津、  
 液、瀦滲、著、而不去、而積成矣、コレ積ノ外寒邪ニ感シ、内暴怒、  
 ニ傷ラル、ヨリ、生ズル者ナリ、其外積ノ生ズル、多端ニ、  
 シテ、一概ニ定リタル、ナケレ、凡、コレノ内経ノ三ノ者ヲ以、  
 テ、大体ヲ察スベシ、又五藏各積アリ、肝ノ積ヲ肥気ト云ヒ、  
 心ヲ伏梁ト云ヒ、肺ヲ息賁ト云ヒ、脾ヲ痞気、腎ヲ奔豚ト云、  
 モ、其分属ニテ、名ヲ異ニスルナリ、内経又曰、憂思傷心、重寒、  
 傷肺、忿怒傷肝、醉以入房、汗出當風、傷脾、用力過度、若入房汗、  
 出、浴則傷腎、コレ五藏積ヲ致スノ由ヲ言タルナリ、然レ、凡、  
 五藏ノ内ニ積ヲ容ルベキ地ナシ、タゞ、藏外ニアリテ、処ヲ

定テ動カサルヲ積ト云ノ、六府ノ聚ニ於テモ、義ハ積ト、  
 同ジ、ナリ、積ハ藏病ナレバ、定着ノ病ナリ、聚ハ府病ナレ、  
 バ、定着ノ処ナシ、コレ藏府ト、積聚トノ分ル、所以ナリ、夫、  
 レ藏ハ陰ナリ、邪気ト藏気ト、相依着シテ、根アツテ、其所ニ、  
 維クニ似タリ、府ハ陽ナリ、自ラ往來シテ、タゞ、府ニ附近シ、  
 テ、係属セザルナリ、コレ藏陰ハ、静ヲ主トシテ、移ラズ、府陽、  
 ハ、動ヲ主トシテ、流走スルナリ、其形状ノ動静ニヨリテ、積、  
 聚ヲ分ツノ、病状元ヨリ同物ナリ、内経亦曰、是故、虚邪之、  
 中、人也、始、于皮膚、皮膚緩、則腠理開、開、則邪從、毛髮入、入、則抵、  
 深、深、則毛髮立、毛髮立、則淅然、故皮膚痛、留、而不去、傳、舍、于、絡、  
 脉、在、絡、之、時、痛、于、肌肉、其痛之、時、大經乃代、留、而不去、傳、舍、于

經在經之時、洒淅善驚、留而不去、傳舍于輸、在輸之時、六經不通四肢、則肢節痛、腰脊乃強、留而不去、傳舍于伏衝之時、体重身痛、留而不去、傳舍于腸胃、在腸胃之時、責嚮腹脹、多寒則腸鳴飧泄、食不化、多熱則溏出糜、留而不去、傳舍于腸胃之外、募原之間、留着于脉、稽留而不去、息而成積トアリ、コレ外虛邪ヲ受ケ、内傳漸ク深ク、留而去ラズ、募原ニ客シ、稽留息止シテ、患ヲ致スヲ言タルナリ、按スルニ溏出糜トハ、糜ハ穢泥ノ如クナルニ比スト云リ、又曰、或着經脉、或着絡脉、或着輸脉、或着于伏衝之脉、或着膂筋、或着腸胃之募原、上連于緩筋、邪氣淫泆、不可勝論トアリ、コレ藏府ノ外、募原ノ間、處トシテ積ヲナサバ、ル一ナキヲ云タルナリ、又内經

ニ岐伯曰、其着孫絡之脉、而成積者、其積往來、上下臂手、孫絡之居也、浮而緩、不能旬積而止之、故往來、移行腸胃之間、水淩滲灌注、濯々有音、有寒則脹、脹滿雷引、故時切痛、其着于陽明之經、則挾臍、而居飽食則益大、飢則益小、其着于緩筋也、似陽明之積、飽食則痛、飢則安、其着于腸胃之募原也、痛而外連于緩筋、飽食安、飢則痛、其着于伏衝之脉者、揣之、忘手而動、發手則熱氣下于兩股、如湯沃之狀、其着于膂筋、在膂後者、飢則積見、飽則積不見、按之、不得其着、于輸之脉者、閉塞不通、津液不下、孔竅乾壅、此邪氣之從外入、内從上下也、トアリ、コレハ積ノ在トナク、不在トナク、一ヲ執テ求ムベカラザルヲ云ナリ、コレ積ノ由テナルト、成テ後ト、駐ル處トヲ、詳ニ述タリ、

繁文ナレ、凡論注ニ引ク所、頗ル心得ニナルコトナレバ、コ、  
 ニ挙ゲ示スナリ、コレニ由テ堅定ナル者ヲ、積ト名ク、其病  
 ノ深キナリ、又流動スル者ヲ、聚ト名ク、其病淺シ、故ニ積ハ  
 終ニ移ラズ、係属スル所アルナリ、聚ハ展轉痛ニ移ル、係属  
 スル所ナキナリ、コレ積聚俱ニ、上、風雨寒暑ノ虚邪ヲ受ケ、  
 下、清湿ノ陰邪ヲ受ケ、中喜怒ノ不節ニ、傷ラレテヨリ成ル  
 者ナリ、已上内經ニ、説ク所ノ積聚ノ由ニシテ、此ノ如クニ  
 ナルトイヘ、凡元ヨリ百合ノ一毒、散漫轉衰シテ来ル者ナ  
 レバ、コレ亦其病状ハ種々ニ變動スレ、凡根本ノ附着スル  
 部位ヲ知テ、積ノ治方ヲ処スベキナリ、聚ニ至リテハ、元ヨ  
 リ展轉シテ、処ヲ定メザル病ナリトイヘ、凡亦能ク八条目

ヲ推明メテ、ソノ展轉スル衰化ニ志ジテ、治方ヲ処スベシ、  
 積聚ハ、一朝一夕ノコニアラザル故ニ、小效近功ヲノミ、圖  
 リテ、一刻ニ快クセシト思フベカラズ、サテ穀氣ハ、口ヨリ  
 入ル所ノ、食物ノ気化セズシテ、腹下ニアリテ痛ム者ナリ、  
 故ニ其痛ヲ按ス、凡ハ愈レ、凡、子ヨコク、癸シテ痛ム者ナリ、  
 穀氣ハ、本ト胃氣ナリ、胃中ノ飲食、腐化スルコト能ハザルヨ  
 リ、胃外ノ腹下ニ結ビ、迫リテ痛ムナリ、コレヲ按テ、其氣散  
 スル、凡ハ其痛ヤム、故ニ按之則愈ト云リ、然レ、凡胃中並ニ  
 腸下ノ氣、散シ、尽テ治シタルニアラズ、故ニ復癸スルナリ、  
 コレ上ニ内經ヲ引タル中ニ、飽食シテ痛ムト、又痛ノヤム  
 ト、飢テ痛ムト、又痛ノヤムト、其病ニヨリテ、一定ナラザレ

凡食氣ニ付テ起伏ノアルハ皆穀氣ナリト知ルベシ俗ニ云積氣ハ多クハコノ穀氣ナリ故ニオサマルト云ヒオコルト云ノミニテサツハリト全快シタル者ハ至テ稀ナリタトヒ全快シタル者モ久シク積ガオコラストノミ思フ者多シコノ復発スルノ穀氣タルヲヨクク工夫シテ治ヲ誤ラス様ニスベシ其腹下ト云ニ左ニアル者多シ左ハ脾胃ノ部位ニテ氣ヲ主トシ食飲ヲ專ラトシテ凝結スルナリ又右ニアル者ハ肝ノ部位ニテ血ヲ主トシテ水モ氣モ凝結スルナリコレ左右ノ分別ニヨリテ水血ノ主客アリ又厘脱ノ食滯ハ左ニ凝結シテ右ノ方ヘ引付痛ム者ナリ太陽下篇ノ柴胡竜骨牡蛎湯ノ条ヲ併セ考フベシ

口諸積大法脈來細而附骨者乃積也寸口積在胸中微出寸口積在喉中關上積在臍傍上關上積在心下微下關積在少腹尺中積在氣衝脈出左積在左脈出右積在右脈兩出積在中央各以其部處之

コノ条ハ上ノ積ノ附着シテ内伏シタル者ハ脈ヲ以テ其所存ヲ知ルベキヲ示シタル条ナリ然レ凡積一病ニカキラズ萬病ノ診脈ノ部位ヲモコレニテ知ルベシ余が家ニテハコノ条ヲ以テ脈ノ部ノ惣軌則トス委クハ己ニ医学警悟ニ説リ併セ考フベシサテ諸積ト云諸ノ字ニ上ノ条ニ内經ヲ引タル種々ノ積ヲ統ベテ云リ脈ノ形状ハ人ノ宿ノ種々アル故ニ急度細而附骨者ニ一定シガタシ

故ニ大法ト云テ、大体ヲ示シタリ、積ハ上ニ説ク如ク、血分  
 寒凝シテ滯ルヨリ、一町ニ附着シタル証故、細トシマリテ、  
 十分内伏シテ、潛ミ藏レテ、骨ニ附クナリ、コノ脈ノアラハ  
 ル、者ハ、乃チ積ノアル人ナリトナリ、寸口ノ部ニ、其細而  
 附骨脈ノアラハル、者ハ、積ノ胸中ニアル者ナリ、コレ寸  
 口ハ、胸中ヲ診スル部位ナレバナリ、微出寸口トハ、其細而  
 附骨脈、少シバカリ寸口ノ上ニ出ル者ハ、積喉中ニアリ、コ  
 レ積ハ俗ニ云積気トハ異ニシテ、血ノ寒凝シタルヲ云ナ  
 リ、寸口ノ上ハ、喉ヲ候フ部位ナリ、又關上ニ其脈ノアラハ  
 ル、者ハ、積臍傍ニアリ、コレ關上ハ腹ヲ候フ部位ナレバ  
 ナリ、關上ヨリ上ニアレバ積心下ニアリ、コレ關上ノ上ハ

心下ヲ候フ部位ナレバナリ、微シク關ヨリ下ニアラハル  
 、ハ、積少腹ニアリ、コレ關ノ下ハ、少腹ヲ候フ部位ナリ、尺  
 中ニアレバ、積気衝ニアリ、コノ外下ハ股膝胫足ニ至リ、上  
 ハ咽喉ヨリ以上、頭面マデモ、少シツ、ノ上下ニテ、各其部  
 位ヲ候フナリ、脈ノ左右ニ随テ、積ノ左右ヲ知り、両方ニ出  
 ル者ハ、積ノ中央ニアルヲ知ル等、積ノ脈ノ一種ヲ以テ、  
 萬病ノ脈ノ部位ヲ知ルベシ、内經ノ脈要精微論ヨリハ、簡  
 明ニシテ、診脈ノ規則、コノ条ノ右ニ出ルヲナシ、サテ寸口  
 ニ、胸喉ノ部位ヲ云、關上ニ、心下、臍傍、少腹ノ三部位ヲ示シ、  
 尺中ニ、氣衝一部位ヲ示ストイヘ、凡、三部共ニ、各上中下ト  
 分テ見ルベキヲ、内ニ含ミタルナリ、サテコノ条ハ、積ノ



脉故ニ其部位卑シ若シ陽証逆上ノ強キ病ナラバ、コノ三部ノ上中下共ニ一等ヅ、位ノ進ム者ナレバ、陰陽虛實ニヨリテ、其部ノ進退アルヲモ、兼テ心得置クベキナリ、以上、三焦竭部ヨリ、コノニ至テ四个条、前後合シテ二十个条ヲ以テ、五藏風寒、三焦竭部、積聚穀氣、診脉ノ部位ノ軌則マデヲ示ス、實ニ大切ノ篇ナリ、

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

○辨痰飲欬嗽病脉證并治法第十三

欬嗽ノ病ハ、少シノ風邪ニモ多クアル者ナレ、凡、兼証ニシテ客病モアリ、然レ、凡、コノ篇ト、前ノ肺痿肺癰肺脹ノ欬嗽トハ、主トシテ来ル中ニ、二ノ差別アルヲ以テ、此ノ如クニ篇目ヲ別ニシタルナリ、コノ処ヲヨク會得シテ、欬嗽ノ異ナルヲ察知スベシ、

口問曰、夫飲有四、何謂也、師曰、有痰飲、有懸飲、有溢飲、有支飲、之痰飲、々後水流在胛下、欬唾引痛、謂之懸飲、飲水流行、飯於四肢、當汗出而不汗出、身体疼重、謂之溢飲、欬逆倚息、短氣不得卧、其形如腫、謂之支飲、

サテ痰飲ト水気ト、同ク水ヨリ起ルトイヘ、各別ナリ、何  
 如ナレバ、水気病モ、喘欬ヲ帯ル者アリテ、痰飲ニ似タリ、痰  
 飲モ、浮腫ヲ帯ル者アリテ、水気病ニ類セリ、コノ別チヨヨ  
 ク察スベシ、痰飲ハ、元ヨリ内ニ血ノ凝結ノアル者カ、毒ノ  
 内伏シタル者カ、膏梁ニテ一身ノ水血ノ濁リタル者カ、天  
 然ノ百合ノ一毒ノ埋伏シテヨリ、熱ト共ニ水飲津液ヲ煎  
 鑠シテ、粘着シタルヨリ来ル者ナリ、水気病モ、毒ハアレ、凡  
 其毒別々ニナリテ、水気ノタマハル者ナリ、コノ支飲ナドモ、  
 血毒心下ニ凝寒シテヨリ来ル、喘息持モ、結毒ノ凝結アリ  
 テ、痰喘ヲ生スレバ、コノ差別ヲヨク察知スベシ、コレ痰  
 飲篇ト、水気病篇トノ目ヲ別ツ所以ナリ、サテコノ篇ハ、俗

ニ云留飲ナリ、其留飲ニ、四ノ差別アリ、痰飲ト、懸飲ト、溢飲  
 ト、支飲トナリ、故ニ問答ヲ以テ、コレヲ辨明セリ、コレ留飲  
 ハ、惣名ニシテ、痰懸溢支ハ、別名ナリ、其四ニ別アルハ、云何  
 ト重テ問タリ、師ノ答ニ、其人素盛トテ、元来肌肉充盛ニシ  
 テ、ヨク肥タル人ナリ、サテ肥満シタル人ヲ見ルニ、陽気盛  
 シナル故ニ、水血十分ニ一身ニ充実シタルナリ、コノ人死  
 病ニシテ勢アル様ニ見ユレ、凡、肉中ニ充滿シタル水血ヨ  
 ドミテ、スラクト聚散會通セザル処アリ、若シ平生力業ヲ  
 シテ、身ヲコナス者ナラバ、大ナル惱ミモアルマジケレ、凡  
 カモ出サスシテ、膏梁ニ飽キ、酒食ニ耽ル者ハ、水血両ナガ  
 ラ粘滯スル所出来ルナリ、コレ素盛ト云処ニ、己ニ水血ノ

滞ルベキ因ヲ見セタルナリ、時ニ其人外風寒ニ感ズルカ、  
 又ハ内七情ニ動カサル、ヨリ、其心快ラズシテ、充滿シタ  
 ル水血、内陷シテ滞リ、血ノビズ、水気湛エテ和セザルヨリ、  
 其水腸胃ノ外、肉分ノ処ニタマリテ、漑々トテグハラク鳴  
 テ、壺ノアル、コレヲ痰飲ト云、コレ俗ニ云留飲ナリ、其水元  
 ヨリ粘汁ナレバ、浮腫ノ水気トハ異ニシテ、粘濁ナリト知  
 ルベシ、同ジ水ノ衰ナレバ、湿汁ト、水気ト、痰飲トノ差別ア  
 ルナリ、コレ常ニアル度ニテモ、水穀ノ気、并ニ一身ヲ營養  
 スル精液、七情ノ動、所ヨリ生ズル、気熱ノ為ニ煎熬セラ  
 レテ、成ル者ト見ユ、コレニテモ常ノ水気トハ、異ナル所ヲ  
 知ルベシ、素盛ナル人ハ、飲啜ノ過ル所アリテ、腸胃傷子テ、

コノ病ヲ致スナリ、腸間ノ間ノ字ニ、意ヲ附テ見ルベシ、コ  
 レ腸中ニアラズ、腸ト腸トノ間ニシテ、水ノ流行スル道路  
 ニアラズ、故ニ漑々トシテ壺アルナリ、サテ其留飲、後ニ脘  
 下ニ流在スルハ、今飲ム所ノ水モ、又下地ヨリ滞ル所ノ水  
 飲モ、共ニ流レテ脘下ニ在ルアリ、サテ效ヲナシ唾バキス  
 ルト、其脘下ノ水飲ニ響キ、飲水ヲ中ニ引上ル形ニシテ、引  
 ハリ痛ム、コレヲ懸飲ト云、懸ハ物ヲ中ニブラザゲタル形  
 ニシテ、痛ノ引上ラレテ中ニアルヲ云、サテ其水飲、流レテ  
 外行シ、四肢ニタマリテ、手足重ク、一身マデモ及ブトイヘ  
 氏、汗ニ出ル所ハ、身軽クナレバ、汗ニ出ズシテ、疼テ重クナ  
 ル、コレ水飲外ニ溢レテ、皮表ニ滞ルヨリ、此ノ如クニナル

故ニ、コレヲ溢飲ト名ク、コノ証ヲ發汗シテ、身ノ疼重ナリテ、  
 輕クナリテモ、内外ノ気血和セザレバ、時々水飲タマリテ、  
 身疼重ヲナスナリ、又發汗シテ治スレバ、アマリニ發汗過  
 レバ、一身ノ血、津液ヲ失フテ凝結シ、手足麻痺シテ、彼ノ不  
 遂ノ中風ノ証ノ如クニナル者多シ、コレ亦溢飲トイヘバ、  
 水飲ノミ溢ル、ニアラズ、気血ノ衰モ、兼テ心ヲ用テ察シ  
 ヲクベシ、其外一切ノ表証ヲ發汗シテモ、度々ニ及ブ片ハ、  
 数度ノ發汗ノ為ニ、皮表ノ津液乾涸シ、皮中ノ血和セスシ  
 テ、總身ニ痒キ物ヲ發スルコトアリ、コレ亦水涸ルレバ、血ノ  
 乾ク者ニシテ、コノ溢飲ノ後ニ、麻痺スル者ト同理ナリ、發  
 汗後ニ、痒キ物ヲ生ズルハ、内ヨリ發生スルニアラズ、俗ニ

云感冒、風引タル証ヲ、数度ノ發汗ノ衰ニテ、皮表ノ処ニ俄  
 ニ生ズル者ナリ、サテ水飲胸膈ニ上衝シテ、欬逆スル者ハ、  
 倚息トテ、物ニ倚リカ、リ、息ヲスルバカリニテ、横ニ卧ス  
 可能ハズ、コレ水飲胸中ニ衝突シ、短氣ト呼吸セハシクナ  
 リテ、欬ヲスルニ逆上シテ、其上ニ一身面部マデモ、腫ル、  
 ナリ、然ルニ如腫ト云タルハ、水ノ一身ニ散漫スル所ノ水  
 気病トハ差別アリテ、腫ハ主トセズ、只胸中ノ短氣、不能卧、  
 欬逆倚息ヲ主トスレバナリ、コレ太陽下篇ノ甘艸附子湯  
 ノ条ニ、若微腫スル者トアル意ナリ、コレヲ支飲ト名ク、コ  
 ノ証ヲ見ルニ、心下ニ大ナル塊物アリテ、石ノ如ク堅シ、コ  
 レ留飲ノ凝結シテ、毒血モ俱ニ結ビ迫リタルナリ、故ニコ

ノ支飲ハ脊推マデモ凝結スル証多シ、皆膏梁ノ衰ヨリ来  
 テ種々ノ一ニ辛苦シテ、気血ノ凝リアル上ニ、水飲支迫シ  
 テ来ル証ナリ、コノ内ニ種々ノ支飲アリ、本条ニテ、各治方  
 ノ異ナルヲ奉示シタリ、併セ考フベシ、サテコノ支飲ヲ、不  
 治ノ者ナリトス、余ハ数人治シタリ、奥ノ木防己湯ノ条ニ  
 テ、精ク説クベシ、又一種留飲痛トテ、頻リニ痛ムニ、牡蛎辛  
 螺ノ末ヲ以テ、其水飲ヲ推シ下ケテ、暫ク痛ヲ凌ク者アリ、  
 コレハ腹中瀝々トシテ、色有ルナレバ、留飲ノ主タル証ニ  
 アラズ、寒気腹中ニアリテ、陽氣ヲシメテ行ラサズ、水飲シ  
 メ出サレテ痛ミ、グハラクトナル者ナリ、コレハ附子粳米  
 湯ノ証ニシテ、雷鳴切痛ノ者ナリ、形ハ痰飲ト、懸飲ト、一緒

ニシタル病ノ様ニ見ユレバ、絶テ飲ノ気ナシ、四飲ノ証ハ、  
 コトクク、飲ヲ帶ザル者ナシ、溢飲ニハ、夕マク、飲ノナキ証  
 モアレバ、又飲ヲ兼ル証モアレバ、四飲ノ者トハ別ナリ、已  
 上四飲ヲ以テ、痰飲ノ大目トナスナリ、コレヨリ以下ノ凡  
 例ハ、皆ソノ病状ニヨリテ、コノ四飲ニ属スル者ヲ示シタ  
 ルナリ、

口夫心下有留飲、其人背寒冷如手大、  
 コノ条ハ、上ノ痰飲ノ証ナレバ、膈中瀝々タル色ナクシテ、  
 心下ニ留飲ノ凝リタル者ナリ、其留飲ノ為ニ大ナル患ハ  
 ナケレバ、背ノ寒冷ナルヲ、手ノ大サノ如キヲ覺ユルナリ、  
 コレ背寒冷ヲ以テ、留飲ノアルヲ知ルナリ、外ノ病ニモ、

背寒冷ヲ覺エテ、イカ程衣類ヲ褰子テモ、内ヨリヒヤクスル者アリ、故ニ其人ト云タルナリ、

口留飲者、服下痛、引欬、欬則轉甚、

コレ上ノ懸飲ノ証ニシテ、同シ留飲ノアルニモ、服下ヨリ

欬、欬一テ、引ハリ痛ム者ナリ、其上ニ欬嗽スレバ、其服下ヨ

リ、欬、欬ニ引痛ム所ノ者、一向ニ堪エ難クナル故ニ、欬嗽則

轉甚ト云リ、

口胸中有留飲、其人短氣而渴、四肢歴節痛、脈沈者、有留飲、

コレハ上ノ溢飲ノ証ナリ、元來胸中ニ留飲アリテ、其人イ

キドシク、其上腹部ノ水モ、胸中へ上攻シテ、短氣スルナリ、

故ニ胃中ニ水ナクシテ、渴ヲ發スルナリ、依テ而ノ字アリ

テ渴ト云リ、右ノ如ク胃中ノ渴ハ、皆水ヲ胸中へ推シ上ゲ

タル者ナレバ、其勢ニテ内ノ水ヲ外へモ推シ出シテ、四肢

ニ迫リテ行ラズ、故ニ手足ノ節々痛ムナリ、コレ外邪ノ閉

塞ニテ、四肢又ハ身体ノ疼痛スル者ニ疑シ、由テ脈ノ沈ナ

ルヲ以テ、外邪ニアラズ、内ヨリ上外へ溢ル、所ノ水飲ナ

ルヲ示シテ、脈沈者有留飲ト云リ、

口膈上病、痰滿喘、欬吐、發則寒熱、背痛、腰疼、目眩、其人振々身

潤、劇必有伏飲、目眩、一作目泣自出

コレ上ノ支飲ノ証ナリ、サテ膈上ニ痰アリテ、頻リニ咽喉

ニ迫リテ滿喘シ、欬モアリ、吐モアル証ナリ、滿喘ト云タル

ハ、別ニ意味ナシトイヘ、凡滿ノ方ノ主ニナル証ナリ、コレ

胸膈中ニ痰アリテ、滿喘シ、效シ吐スルヲ以テ、其病者ノ效  
 逆喘鳴シテ、短気不得卧ノ形状ヲ察スベシ、此ノ如クニ發  
 スル片ハ、乍ニ一身寒慄シテ、衣被ヲ覆フカトスレバ、又乍  
 チ肩背ヲ風ニ露シ、傍ヲヨリ扇ヲ以テ風ヲ入サスルニ至  
 ル、コノ寒熱一人ノ上ニテ、往來スルモアリ、又惡寒バカリ  
 ノ時モアリ、始ヨリ熱バカリニテ、肩背ヲ露スルモアリ、然  
 レ、凡タ、胸膈中ノ支飲ノ迫リヲ主トシテ、寒熱ハ、時節ニ  
 ヲリテ、微劇定ラズ、此ノ如キニ至レバ、背痛、腰疼ム、コレ  
 モ倚息シテ、不能卧ガ故ニ、肩背脊推腰股マデモ、疼痛不仁  
 スルコトアリ、主タル病状ニハアラガレ、凡、病者ノ勢ヲ察知  
 スベシ、又目眩スルモアリ、一本ニ作目泣自出トアルモ、上

逆喘滿、效吐ノ勢ニテ、俱ニ上面部マデモ、迫上スル勢ヲ示  
 シタルナリ、其上ニ胸膈マズク短気シテ、気モ血モ行ラズ、  
 一身共ニ振ヒガ出テ、ビククトスルニ至ル、コレ支飲ノ証  
 ニシテ、發スル時ノ病勢ヲ示シタリ、此ノ如クニ劇シナル  
 者ハ、必ず伏飲アリテ、胸中ニ迫リタル者ナリ、故ニ劇必有  
 伏飲ト云リ、已上四个条ハ、始ノ四飲ノ症ヲ再ヒアゲテ、其  
 病状ヲ尽シタルナリ、

口病、痰飲者、當以温藥和之、

コノ条ハ、又四飲ノ中ノ痰飲ヲ挙テ、其治方ノ主意ヲ示シ  
 タルナリ、痰飲ノ病状ハ、已ニ上ニ述タル如ク、素盛ニ令瘦  
 セタル程ニ、内ノカノヌケタル証ナレバ、必ず攻撃ノカ、

リ難キヲ戒メテ、温藥ニテコレヲ和スルガ、當リナリト云ルナリ、凡ソ世間ニ留飲痰飲トイヘバ、下劑ヲ用ル者多シ、實ニ既稽ノ甚シキ者ナリ、懸飲ハ十枣湯ノカ、ル証ナレバ、水飲ヲ下セ、痰飲ニ於テハ、下スベキ實証ニアラズ、若シ外ニ實証アリテ、痰飲ヲ兼タル者ハ、一概ニ温藥トモ言ヒ難ケレ、凡ソ痰飲トノミ推シ出シテ稱スル者ハ、ヨクコ、ノ処ヲ心得テ、病者ヲ悞ルヲナカレ、

口夫病者、飲水多、必暴喘滿、凡食少飲多、水停心下、甚者則悸、微者短氣、脉双弦者、寒也、皆大下後、裏虛、脉偏弦者、飲也、コレ亦前条ヲ受テ、痰飲ノミナラズ、喘滿、心下悸、短氣、スル者ニモ、下劑ノ投ジ難キ証アルヲ示シタルナリ、サテ他

病ニモセヨ、又ハ无病ナル者ニモセヨ、多ク水ヲ飲ミ、其水胸中ニアリテ、下流セザル片ハ、暴カニ咽喉ニ迫リテ、喘滿スルナリ、コレ无病ニ見エテモ、内ニ必ズ寒凝シタル因アリテ、陽氣ノ不順ノ者ナレバ、喘滿ノ病状ハアリテモ、下劑ノカ、ラヌ証ナリ、コレハ支飲ノ喘滿ノ証ニ、木防己去石、羔加茯苓芒消湯ノ証アル故ニ、コノ戒ヲ下シタリ、支飲ノ喘滿トハ、異ナル者ナリ、サテ平生ニテモ、又ハ何ソ他病ノ時ニテモ、食物少ナク、飲ムヲ多キ者ハ、水心下ニ停ル者ナリ、故ニ凡ソ云テ、一切ヲ統ベ括リタリ、其心下ノ停水、甚シキ者ハ、悸ト云リ、コノ悸ノ字ヲ、吾邦ノ説者ハ、夕、水ノサハクスルトバカリ解シテ、短氣ノ者ヨリ甚シキヲ知



ラズ、悸ハ水飲逆行シテ、呼吸モ促迫シ、咽喉喘鳴シテ、口ニ痰沫ヲフクミ、吐嚔共ニナシ、難ク見ユテ、甚ク急迫ノ強キヲ云ナリ、太陽上篇、五苓散ノ同条ノ茯苓甘草湯ノカ、ル証ナリ、厥陰篇ニ、傷寒厥、而心下悸者、宜先治水、當服茯苓甘草湯、卻治其厥、不爾、水漬入胃、必作利也トアルヲ見ルベレ、厥ヲアラハス証ヲ後ニシテ、心下ノ悸ヲ先ニスル程ノ急迫ノ水ナレバ、其形状実ニ忍ビ難キ者ナリ、余シバク此証ニ遇テ、其病状ヲ知り、精ク厥陰篇ニ説キ示シタレバ、再ビ贅セズ、コ、ニモ甚者、則悸、微者、短氣ト云タルヲミテ、短氣ヨリ悸ノ甚シキノ察スベシ、右ノ証微甚トモニ、脈ノ弦ナル者ハ、実証ニアラズ、内陽氣ノ宣ザル所アリテ、水氣ノ寒

ト閉ラレテヨリ来ル証ナリ、コノ弦ノ脈ハ、前々ニモアル如ク、底ニカナク、中ニ引ハリノアル脈ニテ、内カナクシテ、上ヅリニナル者ニアリ、双弦ノ双ノ字ヲ、手ノ左右ニトル説モアリ、上ノ微甚ノ二ニカケテ見ルモ、俱ニ理アリ、サテ以上ノ証ヲ、実証カト思ヒ誤ラヌ様ニ、皆大下後ト云リ、コレハ自ラ大ニ下リタル後ナレバ、他ノ実証アリテ、大ニ下シタル後ニテモ、俱ニ裏盈シタル者ニシテ、殊更脈ノ偏弦トテ、偏ニ弦バカリアラハル、者ハ、内虚シ、下カナクシテ、水飲ノ上ニ停滞シタル証ナレバ、寒也ト上ノ句ニ云タルナリ、双ノ字、偏ノ字ニ對シテ見テモ、亦其意通ス、口肺鼓不弦、但苦喘短氣、

コレ上ノ脈ノ弦ヲ受テ、コノ条ヲ示シタリ、サテ弦ノ脈ニ  
 テ、下劑ノ証ニアラザル、水飲ノ証ヲ、上ノ条ニ示シタレ、  
 脈弦ナラズシテ、水飲ノ者アリ、コレ肺ニアル水飲ナリ、肺  
 ニアル水飲ハ、喘モアリ、短氣スル証ナレ、凡、心下トハ位大  
 ニ高クシテ、上部ナレバ、弦ナクシテ水飲ノアルハ、肺飲ナ  
 リト云意ナリ、前々ノ篇ニアル、肺脹ノ二条、俱ニ下劑ノ  
 証ニアラズ、脈浮大ト、脈浮トノ二ノミナリ、併セ考テ、コノ  
 肺飲ヲ知ルベシ、コ、ニ肺飲バカリヲ奉テ、他ノ四藏ヲ示  
 サズルニハアラズ、次ノ条ニ、追々五藏共ニ示セ、凡、弦ノ字  
 ヨリ順列ヲ受テ、コ、ニ序デタルナリ、  
 口支飲、亦喘而不能卧、加短氣、其脈平也、

コレ上ノ肺飲ヲ受テ、支飲ニモ亦喘短氣アルヲ見セタリ、  
 コノ条ハ、喘而不能卧上ニ、短氣ノ病ヲ加テ、全ク肺飲ト同  
 ジ病状ナレ、凡、脈ノ平ナルヲ以テ、支飲ナルヲ知ルナリ、  
 サテ脈ノ平ナルニ、喘シテ卧ス、能ハズ、短氣ヲ加ル病ノ  
 アルハ、何如ト云ニ、上ノ不弦ハ、肺飲ノ証ニシテ、彼ノ底ニ  
 カナクシテ、上ヅリニナル、寒飲ノ証トハ異ナリ、コレ脈ノ  
 弦ナラザルガ、肺飲ナリ、其肺飲ノ病状ニヨク似テ、其脈ノ  
 平ナルハ、支飲ナリト云意ナリ、其ノ字ハ、コノ支飲ノ脈ハ、  
 平ナリト云心ナリ、コレ弦ノ脈ハ、裏虚ノ証ニシテ、下ニカ  
 ナク上ヅリニナリテ、水飲モ上ニ迫ル証ニテ、寒飲ナリ、肺  
 飲ハ、始ヨリ上部ノ飲ナレバ、喘短氣ニハ苦シメ、凡、下ニカ

又ケテ上ヅリニナリ、下ヨリ上ル証ニアラズ、故ニ不弦ト云テ、其意ヲ喻シタリ、支飲モ、肺飲ト同ジ病状ナレバ、其脈ノ平ナルヲ以テ見レバ、胸膈ニハアレバ、肺飲トハ異ナル者ニシテ、弦脈裏厘ノ水飲トモ、又異ナルヲ示シタルナリ、コノ三个条、互ニ發明シテ示シタレバ、文殊ニ簡約ナレバ、潜思シテ再三翫味スルニアラズンバ、其解ヲ得難シ、学者ヨクく熟読スベシ、

口水在心、心下坚築、短气、恶水不欲飲、水在肺、吐涎沫、欲飲水、水在脾、少气身重、水在肝、腹下支滿、噎而痛、水在腎、心下悸、

コレ上ノ三个条ノ中ニ、肺飲ヲ論ジタルガ故ニ、コレニ又

五藏ノ水飲ヲ示シタリ、然レバ水気病篇ノ五藏ノ水トハ差別アリテ、腫気ノナキ証ナリ、又トヒタマク腫気ハアリテモ、水飲ノタマリタル方が主ナレバ、始ヨリコノ差別ヲ心得テ解スベシ、凡例ノ第一个条ノ解ト、併セ見ルベシ、サテ水飲心ノ部ニタマリテアル者ハ、心下坚築トナレリ、築トハ、水気心下ノ坚キ処ヘツキアタリテ、響ノアル様ナルヲ云リ、其上ニ短气アリ、コレ坚築ノ勢、自ラ短气ノ病状ヲ含ミタルナリ、水心下ニタマリタル故ニ、渴ノ様子少シモナク、水ヲ惡シテ、飲物ノ類マデモ、イヤカルナリ、故ニ惡水不欲飲ト云リ、サテ水ノ肺ニアル者ハ、呼吸ニ随テ、气ノ迫ル勢アリテ、口中ニ水飲餘リテ、涎沫ヲ吐スル故ニ、津液メ

ガラザルヲ以テ、欲飲<sub>下</sub>水ナリ、コレ肺痿肺癰ノ吐涎沫トハ  
 異ナレバ、同ジ部位ナレバ、病状ハヨク似テ、咽ノ乾キナク  
 欲飲水ノ証アルナリ、サテ水ノ脾ニアル者ハ、胃ノ気モ内  
 ニ沈ム意アリテ、外ニ宣<sub>ズ</sub>、故ニ気急迫シテ、少気ヲナシ、一  
 身肉中ノ脾ノ部属ニ、水行ラザルヲ以テ、身重キナリ、水飲  
 肝ニアル者ハ、腹下ニ堅凝シテ支満シ、肝ノ部属ノ筋膜ニ  
 モ、水ヲ會デ和セザル故ニ、噎スレバ、其脇下支満ノ水飲、筋  
 ト共ニ牽急シテ痛ヲナス、水飲腎ニアル者ハ、下部ノ水不  
 利シ、皆上ニ衝突シテ心下悸スルナリ、上ノ条ニ、心下<sub>一</sub>水  
 飲停リテ、甚シキ者ハ悸シ、微者ハ短気スト云条ヲ併セ考  
 スベシ、彼ハ水ヲ多ク飲テ、暴ニ喘満シ、又食少ク飲多<sub>イ</sub>ヲ

以テ、水心下ニ停リテ悸ヲナシ、此ハ下水藏ノ腎ニ水ヲ貯  
 エテ、不順ナルガ故ニ、下流セズ、水飲上ニ壅リテ、心下悸ヲ  
 ナスナリ、何レ悸スル証ハ、内ニ精力ナキヲ以テ、水飲ノ動  
 躍ノ甚シキ者ナリ、以上五藏ニ水飲ノ夕マリタル者ヲ辨  
 別ス、サテコノ五藏ノ水飲トイヘ、凡<sub>レ</sub>皆始ニ示シタル、四飲  
 ニ属スル者ナリ、肺飲ハ、痰飲ニ属シ、肝飲ハ、懸飲ニ属シ、脾  
 飲ハ、溢飲ニ属シ、心飲腎飲ノ二ハ、支飲ニ属スルナリ、以上  
 十个条ハ凡例ニシテ、大体ノ病状ヲ辨別セリ、コレヨリ本  
 条ヲ奉テ、治方ヲ示ス、各其主トスル所ヲ工夫スベシ、  
 ○心下有痰飲、胸脇支満、目眩、苓桂朮甘湯主之、  
 コノ条ハ、痰飲心下ニアリテ、氣逆上衝シテ、水飲ノ上行ス

ル証ナリ故ニ胸腹支満目眩セリ然レ凡胸腹ニ気血凝テ  
 熱ヲ貯ル所ノ小柴胡湯ノ証ニハアラス位ハ同ジナレ  
 凡水ヲ主トスルト気ヲ主トスルトノ差別アルハ經篇  
 ニ明カナレバコニ贅セス目眩トアルモ柴胡ノ証ニ疑  
 シケレ凡コハ夕バ心下有痰飲ト云語ヲ以テ其主タル  
 所ヲ示シ以下ハ柴胡ノ病状ト同ジ様ニ云テ柴胡ニアラ  
 スシカモ少陽ノ部位ニシテ柴胡ト同位ノ苓桂朮甘湯ノ  
 証ヲ示シタルナリ緯篇ニハ何湯主之何湯亦主之ト示シ  
 タル処往々コレアリコレ病状同クシテ証ノ異ナルヲ察  
 センガ為ナリ次ノ条己ニ其意アリ併セ考フベシ  
 ○夫短氣有微飲當從小便去之苓桂朮甘湯主之腎氣丸亦

主之

コレ上ノ条ニ述タル如ク水飲心下ニアリテ短氣スル者  
 ハ苓桂朮甘湯ノ証ナルハ上ノ条ヲ以テ察スベシ有微  
 飲ト云ハ水飲ノ少クアルト云ニハアラス短氣スル者ナ  
 レバ水飲ノ主トナルハ言ズシテ知ルベケレ凡其飲ノ  
 十分上逆シテ頭眩心下逆満ニ至レバ留飲堅凝シテ少シ  
 モ動カザルナリコノ証ハ少ク水飲ノ動ク処アリテ腹診  
 ヲスルニ水動揺シテ手ニ応ジテ色アル者ナリ十分ニ堅  
 凝シタラバ微飲ハアルマジク苓桂朮甘湯ノミノ証ニテ  
 腎氣丸ノ疑似ハアルマジケレ凡コノ微飲アリテ十分ニ  
 堅凝セザル者ハ下部ノ陽氣不順ニシテ血分和セズソレ

ガ為ニ水飲流行セズシテ、短気スレバ、氣逆シテ上ニ堅凝セザル故ニ、下部ヲ主トシテ、腎氣丸ノ主トナル証ナリ、夕々短気有微飲、水云テ、心下トモ、胸腹トモ、位ヲ言ザル所ニ、上下ノ主客ニヨリテ、治方ノ異ナルヲ差別シタルナリ、以上二个条ハ、痰飲ニ、上下ノ差別ヲ示シ、凡例ノ中ノ病痰飲者、當以温藥和之ト云意ヲ、コノ二方ニテ辨明シタルナリ、○病者脈伏、其人欲自利、利反快、雖利心下結堅滿、此為留飲欲去故也、甘遂半夏湯主之、

コノ条ハ、伏飲アル証ニシテ、自利シテ少シク快キヤウニ思ヘ凡、心下ノ堅滿少シモ散ゼザル証ナリ、サテ脈ノ伏スル者ハ、内ニ伏飲アリテ堅凝シ、目眩頭眩等ノ、水氣ノ上衝

一、テモ止ニテ、心下胸中ニ堅ク凝リタル証ナリ、故ニ氣ト共ニ、上ニ凝リツケラレテ、腸以下ノ処ハ、氣下降セズシテ、自ラ利スル者ナリ、コノ自利セント欲スルニテ、上ノ堅凝ノ強キヲ察スベシ、利スレバ、少シハ水飲ノユルム心持ニテ、快ク思フナリ、反トハ、此ノ如クニ上ニ堅滿スル証ハ、下利スレバ、マスキ上突スル者ナレ凡、上ニ十分堅ク凝結シタル、水飲ナレバ、少シモ上ノサハリニナラス、反テ快ク思フ故ニ、利反快ト云リ、下利シテモ、心下ノ堅滿少シモ散ゼザルヲ以テ、心下結、堅滿ト云リ、コノ結ノ字ハ、自利ノ有無ニ拘ラズ、堅滿スルヲ云リ、此為留飲欲去故也ト云語ハ、自利シテ快キヲ解シタル注文ナリ、實ニ留飲ノ和シテ去ル

ニハ非ズトイヘ氏、自利ノ快キハ、留飲ガ下リテ、去ンカト  
 欲シテ快キナリ、欲ノ字、子細ニ翫味スベシ、コノ証ハ、水飲  
 心下ニ堅滿シテ、凝結ノ甚キ証ナレバ、甘遂ヲ以テ、水飲ノ  
 ノ堅滿ヲ、碎クニアラズンバ、解スベカラズ、故ニ甘遂半夏  
 湯主之ト云リ、コレ凝結ノ強キヲ以テ、血モ俱ニ迫レリ、故  
 ニ芍藥ヲ方中ニ組合セタリ、煎ジ上ゲタル後ニ、蜜ヲ和シ  
 テ用ルハ、中ヲ和スルノミナラズ、甘遂ニテ水飲ヲ泻下シ  
 タル後ニ、血ノ滋潤ヲ失ハンコトヲ恐レテナリ、實ニ妙方ト  
 云フベシ、

○脈沈而弦者、懸飲内痛、病懸飲者、十枣湯主之、  
 始ノ凡例ニ、懸飲ノ病状ヲ示シタルバ、病状ハ再ビ挙ズシ

テ、脈ノミヲ示シタルナリ、脈ノ沈而弦ナルハ、水飲内ニ伏  
 シテ、中ニツリ上ラレタルナリ、コレ水飲ノ内伏ノ処ヲ、沉  
 ノ脈ニテ見セ、内痛シテ上ヅリニナリテ中ニ引ハリ痛ム  
 ヲ、弦ノ脈ニテ見セタルナリ、コレハ懸飲ノ証ニシテ、股下  
 ヲリ缺盆マデ、ツリ上ラレテ痛ミ、深ク沈ミタル者ナリ、上  
 ノ甘遂半夏湯ノ証ニ比スレバ、今一段高ク迫リテ、痛ノア  
 ル証ナリ、委クハ太陽下篇ノ十枣湯ノ条ニ、説キ示シタル  
 バ、併セ考フベシ、サテ甘遂ノ代ニ、虵尾根ヲ用ルコトアリ、虵  
 尾、和名イチハツ、花ハ燕子花ニ似テ、葉ハ烏扇ニ似タリ、試  
 テ知ルベシ、以上二个条ハ、懸飲ノ部類ヲ示シタルナリ、

○病溢飲者、當發其汗、大青竜湯主之、小青竜湯亦主之、

溢飲ノ病状ハ、己ニ凡例ニ詳カナレバ、コヽニ畧ス、コレ水  
 飲皮表ニ溢レテ、一身ノ疼重スル証ナレバ、発汗スレバ治  
 スレバ、其發汗ニ二ノ差別アリ、同ジ皮表ナレバ、内実ノハ  
 リ出シノ強キハ、大青竜湯ノ証ナリ、又内ニ力ナクシテ、水  
 飲ノアフレテ、皮表并ニ上ニツリ上ラル、者ハ、小青竜湯  
 ノ証ナリ、コレ皮表ヲ主トシテ、発汗ストイヘバ、俱ニ裏ノ  
 裏ヲ帯ビタル証ナレバ、タゞ表証ノミノ桂枝湯、葛根湯、麻  
 黄湯ノ証ト同ジカラズ、経篇ニ俱ニ傷寒ノ裏ニシテ、虚実  
 ヲ差別シタルヲモ、併セ考フベシ、コノ溢飲ノ証ハ、世上ニ  
 沢山アリ、別ニ身體疼重セザレバ、自分ニモ溢飲トモ思ハ  
 ズ、悩患スル所ナキ故ニ、病トハ思ハヌ者多ケレバ、タゞハ

怪我シテ、手足等ノ内、癩スルカ、又ハスリムク疥癩、血ノ出  
 ルコト少クシテ、水ノ出ルコト多キ者アリ、コレハ溢飲ノ証ナ  
 ルコト明カナリ、コノ者タゞ微邪ニ感シテ、表証ヲ患ル片  
 ハ、必ず常ノ風邪ヨリ重クシテ、始ヨリ裏証ヲモ兼テ、身体  
 疼重強クシテ、必ス大青竜湯ニアラザレバ、解シ難シ、身体  
 疼重ノ輕キ者ハ、喘欬強ク出ル故ニ、小青竜湯ノ証モアル  
 ナリ、コヽニ舉ルニ、其差別ヲ説ズシテ、大青竜湯主之、小青  
 竜湯亦主之、トバカリ云タルハ、学者ヲシテ工夫サセント  
 思フ故ナリ、平易ニ看過スベカラズ、若シコノ証ヲ、タゞ表  
 証ノミナリト思フテ、桂枝湯、麻黄湯バカリニテ、発汗スレ  
 バ、皮表ハ和シテモ、裏証反テ深クナリテ、終ニハ胃実、又ハ



陰分ニ陥リテ救フベカラザルニ至ル者甚ダ多シヨク診  
別シテ誤ルヲナカレコノ一条ハ溢飲ヲ示シテ方ヲ處シ  
タルナリ、一个条ナレバ方ハ二方アレバ、二个条ト同ジ  
ナリ、小青竜湯又支飲ニカ、ルナリ、眞ノ效逆倚息不得卧  
ニ、小青竜湯主之トアリ、併セ見ルベシ、

○膈間支飲其人喘滿心下痞堅面色黧黑其脉沈緊得之數  
十日、医吐下之不愈者、木防己湯主之、虛者即愈、实者三日復  
發、宜木防己去石膏加茯苓硝湯主之、

コレヨリ支飲ノ類ヲ舉ゲ示スナリ、サテ支飲ニ數種アリ、  
コノ条ハ、膈間ノ支飲ヲ示シタリ、間ノ字ニ意ヲ付クベシ、  
始ノ凡例ニアル、膈間ノ間ノ字、後ニアル己椒藶黄丸ノ条

ノ間ノ字モ、皆同ジ意ニシテ、膈間ト云片ハ、膈中トハ少シ  
ク異ナリ、間ハ両方ノアハヒナレバ、膈ノ間ノ气道食道ノ  
中間ナリ、コノ処ニ水飲タマリテ、上逆スル故ニ、其人喘滿  
セリ、其人トハ、支飲ニ非ズ、凡、喘滿スル証アレバナリ、其上  
ニ心下堅ク痞スルナリ、コレ水飲ノミナラズ、血モ共ニ凝  
結スル故ニ、心下高クナリテ堅ク、水血共ニ痞鞭ノ強キ者  
ナリ、コレ人參ノカ、ル目當ナリ、右ノ如ク水血十分ニ堅  
凝シテ、一身モ共ニ行ラズ、殊ニ面色黒クシテ潤沢ナシ、コ  
レ血分ノビザル故ニ、水気ト共ニ面上へ會通セザル故ナ  
リ、故ニ脉モ血ノ凝リアリテ、水飲ヲ結ビタルヲ見セテ、沈  
緊ヲアラハセリ、此ノ如ク病患ヲ得タル処、五六十日ヲ經

ル間ニ胸膈中ニ水飲アリテ喘滿スル所ヲ見テ吐劑ヲカ  
 ケ又心下痞堅シテ十分凝結シタルヲ見テ下劑ヲカケテ  
 モ膈間ノ水飲ナレバ吐下ニテ解スベキ証ニアラズ俱ニ  
 誤ナル故ニ医ノ字ヲ下シタリ故ニ吐下シテ愈ザル者ハ  
 膈間ノ水飲ヲ和シ上衝ヲユルメ心下痞堅ノ血ノ凝結ヲ  
 ユルメン為ニ木防己湯ヲ与ルナリ故ニ木防己湯主之ト  
 云リ木防己ニテ膈間并ニ上部ノ水飲ヲサバキ石羔ニテ  
 裏ノ氣ノ突キ上ルヲ下降シ桂枝ヲ以テ皮表上部一テ突  
 キ上リタル氣ヲ和シ上衝ヲユルメ人參ヲ以テ心下痞堅  
 并ニ喘滿ニツレテ一町ニ凝結シタル血ヲユルメル片ハ  
 膈間ノ支飲和解スルナリ右ノ藥方ニテ虛者即愈ト云リ

虚者トハ前ニ吐下劑ヲ投ジテ上下ノ水飲ハサバケテ唯  
 心下痞堅ノ症ノミ愈エザル者ハ木防己湯ニテ治スルト  
 云意ナリ若シ吐下ニテ上下和セズ中イヨク痞堅ナル者  
 ハ一旦愈ルニ似タリトイヘ凡三日バカリヲ経レバ復發  
 スルナリ故ニ実者三日復發ト云リ其時ハ裏ノ氣内ニ実  
 シテ上行スル勢モ共ニ裏實ニサエラレテ氣内ニ伏スル  
 故ニ木防己湯ノ石羔ヲ去テ芒硝茯苓ヲ加テコレヲ下ス  
 ナリコレ芒硝ニ對シテ実者ト云タルヤウニ見エタリ宜  
 ト主之トニツニ云タルハ若コノ実スル者早ク解シテ復  
 裏ノ氣ノ迫ル勢ヲ發スル片ハ前ノ本方ノ木防己湯ニテ  
 和解スベク又外ノ症ニ轉變セシモ計リ難シ故ニ宜ト云

リ、主之ハ他人寢ナクシテ、徹底推シテ用ユベキナリ、経篇ニ往々説キ示シタリ、サテ木防己湯ハ、桂枝木防己ヨリ、人參ノ分量多シ、コノ人參ハ、殊更直根カ、竹節ニアラズンバ功ナシ、コレ心下痞堅ノ血ノ凝結、至テ強クシテ、水飲ハ、夕バ木防己一味ニテサバキ、気ノ迫リハ、上ハ桂枝、下ハ石羔ナリ、コレニテコノ膈間ノ支飲ノ証ヲ考フベシ、

○心下有支飲、其人苦冒眩、沢泻湯主之、

コノ支飲ハ、心下ニアリテ、欬逆倚息シ、不能卧ノ上ニ、爵冒シテ、眩暈ヲ兼タル証ナリ、其人トアルハ、冒眩ノ病ハ、外ニモアル故ナリ、心下ニ支飲アリテ、冒眩スルガ、コノ沢泻湯ノ主ル所ナリ、苦冒眩トアル、苦ノ字ニテ、其冒眩ノ強キヲ

察スベシ、コレ同じ支飲ナレバ、上ノ膈間トハ、部位ノ差別アリテ、治方異ナリ、沢泻モ、白朮モ、俱ニ水飲ヲ裏下へ行ラス功アリ、

○支飲胸滿者、厚朴大黃湯主之、

コノ支飲ハ、内ニ実スル処アリテ、其胃実ノ勢ニテ、水飲ヲ胸ニ推シ上テ、滿スル証ナレバ、内実ヲスカシテ、胸ニ水飲ノ凝リ迫リテ、滿スル処ヲ、枳実厚朴ニテユルメルナリ、一通リ胃実ニテ、水気ヲ推シ出ス証ハ、腹滿スレバ、コノ証ハ支飲ナレバ、宿ニ兼テ水飲ノ胸ニコム証アリテ、其処へ内実ノ勢ニテ、外へ張り出ス水ヲ、推シ上ケテ、滿スルナリ、コレ宿僻ニヨリテ、胸ノ方へ水ノ迫リタルナリ、滿ハ内ニシ

ツカリト実シテ形ハサマデニ脹ラザル証ナリ、コノ方ト  
小承気湯ト、厚朴三物湯トノ三方共ニ同シ薬味ナレバ、分  
量ノ差別ニテ、方名異ナリ、コノ処ヲヨクク察スベシ、コノ  
支飲ハ、胸間ニアレバ、内実ノ方ヨリ来ル者ナレバ、内ヲ疏  
スヲ以テ主トスルナリ、

○支飲、不得息、葶藶大枣泻肺湯主之、

コノ支飲ハ、胸ヨリ高ク迫リテ、咽喉迄モ及ビ、肺管ニ迫リ  
テ、呼吸ヲサ、ユル故ニ、不得息ニ至ルナリ、コノ証ハ、水飲  
胸咽ノ部位ニ滞ル者ナレバ、水滯レバ、血モ俱ニ滋潤ヲ失  
フテ行ラズ、故ニ前ノ肺癰ト同ク、水血胸膈以上ニ迫リ、本  
ヨリ欬モアル証ナレバ、葶藶大枣泻肺湯ヲ用ルナリ、支飲

ト、肺癰トハ、病状モ回モ、大ニ異ナレバ、其部位ト、水血ノ憂  
トヲ、目當トシテ、薬方ヲ処スルナリ、此等ノ処ニ、平生力ヲ  
用テ修行スベシ、

○呕家、本渴、渴者、為欲解、今反不渴、心下有支飲故也、小半夏  
湯主之、

コノ支飲ハ、暴ニ出来タル証ナリ、サテ呕家本渴トハ、呕家  
ハ本渴スル所アリテ、頻リニ湯水ヲ飲ムヨリ、其湯水胸中  
ニタマリテ、呕ヲ發スレバナリ、故ニ其タマリタル湯水ヲ  
呕シテ、吐キ尽ス片ハ、再ビ渴ガ出ルナリ、渴ガ出ルヤウニ  
ナレバ、内ニタマリタル水飲ハ、モハヤサバケテ、解シ口ニ  
ナリタルナリ、故ニ為欲解ト云リ、又ソレニ反シテ渴セザ

ル者ハ、嘔シ尽サズシテ、心下ニ水飲ノタマリタルナリ故  
 ニ心下有<sup>ガ</sup>支飲故也ト云リ、コレ凡例ニアル所ノ病者飲水  
 多、必暴喘滿ト云、病者ニシテ、元来ハ支飲ニアラザレバ、渴  
 シテ多ク湯水ヲ飲テヨリ、起リタル支飲ナリ、根ノアル所  
 ノ、從來ノ支飲ニアラズ、暴ニ来ル者ナレバ、小半夏湯ヲ以  
 テ、コレヲ和スルナリ、千金ニハ、小半夏湯ニ、茯苓ヲ加タリ、  
 コレ亦大ニ尤ナリ、

○卒嘔吐、心下痞、膈内有水、眩悸者、小半夏加茯苓湯主之。  
 コノ条モ、亦前ノ条ノ小半夏湯ト同ク、卒ニ嘔吐シテヨリ  
 来ル証ナリ、心下ノ痞スルハ、嘔吐シテモ、水尽キザルナリ、  
 コレ元来胸中ニ、水飲ノタマリテアル所ノ者ガ、卒ニ動テ

嘔吐スルヨリ、心下痞シテ水飲迫リ、ソレヨリ胸膈マデ、水  
 気上衝シテ、膈中ニ水ヲ貯ヘ、其水気動衝シテ眩ヲナシ、胸  
 中煩悶シテ、咽喉マデモ水気動躍スル故ニ、悸スル者ナリ、  
 コレ眩悸ノ甚シキニ至ル証ナレバ、卒ニ来ル者ニシテ、從  
 来ノ久病ニアラズ、故ニ小半夏加茯苓湯ニテ治スルナリ、  
 坊本ニハ、膈間有水ト云リ、コノ間ノ字疑フベシ、膈間ノ水  
 ナラバ、卒ニ迫リタル者ニアラズ、コレハ嘔吐ニテ膈中ニ  
 水ノ上突シタル証ナレバ、膈内トカ、膈中トカアルベキ處  
 ナリ、故ニ間ノ字ヲ、内ノ字ニ作りカエタリ、膈間膈間トア  
 ル、前ノ木防己湯、後ノ已椒薑黃丸ノ兩条ノ解ニテ、間ノ字  
 ノ意ヲ知ルベシ、

○腹滿、口舌乾燥、腸間有水氣、已椒薑黃丸主之。  
 コノ証ハ支飲トハ言ヒ難ケレバ、前々ノ証ヲ受テ、防己、椒  
 目、葶藶、大黃、人、四味ノカ、ル所ヲヨク見ルベシ、木防己湯  
 ノ防己、瀉肺湯ノ葶藶、厚朴、大黃湯ノ大黃、ソノ上ニ椒目ヲ  
 組ダル方ナリ、椒目トハ、蜀椒ノ仁ニシテ、血ト水ト、ハダク  
 ニナリテ、行ラザル所ヲ、ヨク氣ヲ和シテ、水ヲ血中へ行ラ  
 ス功アリ、サテコノ証ハ、腹滿甚シクシテ、實ニ脹滿ノ大実  
 証ト云ベキヤウナレバ、大黃芒消ノ類ニテ、色々ニシテモ  
 下ラズ、上心胸ニ十分迫リアリテ、胸腹ヨリ、小腹ニ至ル迄、  
 十分緊滿、膜脹シテ、手ヲ以テ按撫スルニ、石ノ如ク硬滿シ  
 テ、病者ノ心ニモ、張り裂ルヤウニ思ヘリ、口舌乾燥スル故

湯水ヲ飲テモ、滋潤シ難ク、少シク飲メバ、口舌ノ乾燥ハ治  
 セズシテ、心胸腹滿、益強クナル故ニ、藥汁モ至テ恐レテ、飲  
 マザル証ナリ、元ヨリ不大便ニシテ、数十日モ通ゼザル故  
 ニ、蜜導、其外ノ導法ヲ以テ、己ムヲ得ズシテ、大便ヲ通ズ  
 ルト、カニ心胸へ衝突シテ、悶絶、卒倒スルナリ、余コレマデ  
 コノ証ニ、三四人モ出遇テ、實ニ仕法ニ尽キテ、手ヲ束子テ  
 退ントセシマアリ、時ニ病者ニ對スル内ニ、腹内大ニ色ア  
 リテ、一通りノ雷鳴ニ比スレバ、十層倍ノ響ニシテ、カラ車  
 ヲ大道ニ引クカ如ク、傍ラ追モ響ク様ナル音ナリ、病者ニ  
 尋ルニ、コノ腹ノ鳴ルハ、始終己ズト云リ、トクト腹診ス  
 ルニ、十分滿シテ、石ノ如ク坚硬ナル中ニ、腸ノ屈曲ノ形、シ

ツカリト手ニサハリ、夜ヲ去テ見ルニ、亦其腸ノ盤屈シタル形、歴然ト見ユ、其屈曲シタル腸、至テ堅クシテ太キヲ常ニ十倍セリ、其内ニモ腹中ノ鳴動スル壺頻リナリ、ヨクク察スルニ、コノ鳴動ノ壺ハ、腸外ニアリテ、腸ハ堅クダレトシテ、腸中ニハ鳴動ノ響キナシ、始テ知ル腸間ノ水気ノ響キナルヲ、右ノ如ク、食飲藥汁、其外少シニテモ、汁気ノアル物ハ、胸腹滿ニサハル故ニ、恐レテ服セズ、コ、ニ於テ、コノ已椒薑黃丸ヲ、蜜丸ニシテ用ヒシニ、ソロク大便通ジ、小水モ亦日ニ倍シテ通ジ、ダシク腹滿減ジテ、始テ藥汁ヲモ、恐レズ飲ムヲ得タリ、コレ水飲腸外ニ滿シ、上心胸ヨリ、下小腹ニ至ルヲ、テ、水飲ハ、物人間ニ凝結シテ行ラズ、腸

胃中、并ニ胸膈中ハ、乾燥シテ滋潤ナク、實滿シタル証ナリ、コレ腸胃中ノ水飲、腸胃間ニシメ出サレテ、緊滿膜脹シテ、メグラザル故ニ、胃中腸中滋潤ナク、堅ク實シテ、腸ノ屈曲、強緊シテ手ニ當リ、目ニ見ル迄ニ、凝リタルナリ、肛門ヨリ灌導シテ、強テ屎糞ヲ取りタル時、乍ニ手足厥冷シテ、煩躁悶絶シ、其胸腹ノ水気、鳴動甚シク、心胸以上ニ衝突シテ、嘔ヲナシタリシ時、吳茱萸湯ヲ以テ、散ヒ治スルヲ得タリ、コレニテモ水飲至トナリテ、腸間ニアル故ニ、腸中ニ滋潤ヌケテ、乾燥腹滿ノ強キ者ナルヲ察スベシ、コレ支飲ノ類ニテ、十分腹滿ノ強キ証ナリ、按ズルニ太陽下篇ノ結胸ノ部類ニ、太陽病、重テ發汗而復、下シ之、不大便五六日、舌上燥、而

渴、日晡所、小有潮熱、從心下至小腹、鞭滿而痛、不可近者、大陷胸湯主之、トアル水気、腸胃ノ外ニアリテ、潮熱ノナキ証ガ、  
 コノ已椒藶黄丸ノ証ナラント思エリ、ヨク併セ考フベシ、  
 結胸ノ從心下至小腹、鞭滿而痛、不可近者ニ、ヨク似タレ、  
 汗下ノ變ニテ来ラザル者ナリ、コノ条ヲヨク解シテ、實地  
 ニカケタル人至テ稀ナリ、余幸ニコノ病者ヲ治セシヨリ、  
 三四人モ看タレ、凡モハヤ危篤ニ及ンテ、救ハレザリシ者  
 モアリ、残念ナルナリ、又芒硝ヲ加ル証モアリ、芒硝ヲ加  
 ルニ、方後ニ口中津液有テ渴スルトアリ、ソレノミニ限ラ  
 ズ、猶考フベシ、

○假令、瘦人、脐下有悸、吐涎沫而癩眩、此水也、五苓散主之、

コノ証ハ上ノ条ヲ受テ、水逆シテ上衝スルヲ示シタリ、假  
 令トハ、シカト此ノ如クニ来ルニハアテズ、カリニ設ケテ、  
 コノ証ヲ辨ズルナリ、瘦人トハ、始ノ凡例ニ、其人素盛、今瘦  
 トアリテ、外へ水ノハリ出シヌルヲシテ、上ニ迫ル勢ノア  
 ル者ナリ、コレ内ニカナクシテ、下ニ気ノ静定ナラザルヲ  
 見ルベシ、脐下ノ悸スルハ、气逆行シテ、上ニ水飲ノ衝キ上  
 ル故ナリ、欲作奔豚ノ苓桂甘枣湯ノ証ト同フシテ、上ニ水  
 タマラズ、水飲皆上ニ出テ、涎沫トナル、其水ノ勢、下ノ水マ  
 デヲ引上ルヤウニ見ヘタリ、然レ凡下ヨリ上行スル水ナ  
 レバ、涎沫ヲ吐スルホド、益甚シク水下ヨリ上ル故ニ、乍ニ  
 倒ントシテ、眩暈スルナリ、コレ皆水ノ上行シテ、ナス所ナ



リ、故ニ吐涎沫而癲眩、此水也ト云リ、癲癩ノ卒倒スル如ク  
 ニ眩スル所ノ氣逆上行ヲ和シテ、水ヲ下行サスル為ニ、五  
 苓散主之ト云リ、太陽上篇ノ水逆ノ五苓散ノ条ト、併セ考  
 フベシ、以上八个条ニ支飲ノ症、并ニ支飲ニ類スル証マデ  
 ヲ挙テ、病機ノ變化ヲ示スナリ、コレヨリ以下ハ、四飲ノ証  
 ノ内ニ、飲ハアレバ、又飲ヲ主トシテ、標題ノ飲嗽ヲ示スナ  
 リ、回テコ、ニ飲嗽ノ証ノ飲家ニ属スル、凡例ヲ舉示シテ、  
 次ニ治方ヲ辨明セリ、

口久飲數歲、其脈弱者、可治、実大數者死、其脈虛者、必苦冒、其  
 人本有支飲、在胸中故也、治属飲家、  
 夫レ久飲數年愈ザル者アリテ、肺痿ニ陷ル者ト、又コノ飲

家ニ属スル者トノ差別アリ、コノ処ハ肺痿ニアラズシテ、  
 年久シク飲スル者ヲ挙テ、凡例トシタルナリ、サテ其久飲  
 ニテ、脈ニカナク弱ナル者ハ、久飲ノ愈ザルト、脈病相応シ  
 テ、治療ノ出来ル者ナリ、又脈ニカアリテ、実大數トナル者  
 ハ、脈病相応セズシテ、治療ニカ、ラヌ者ナリ、故ニ死ト云  
 リ、凡ソ久飲ノ者ヲ見ルニ、血肉枯瘦シ、大ニ疲労シテ、起居  
 モ甚ダ重キ者ナレバ、脈ニカノナキガ相応ナリ、ソレニ反  
 シテ、実大數ノカノアル脈ハ、不相応ナレバ、死スル者ナリ、  
 コレ治療ノ目當ノナキ者ナリ、其内ニ脈虛シテ、カノナキ  
 者ハ、必ず爵冒シテ、氣閉塞スルナリ、コノ脈ノ虚ハ、始ノ弱  
 ヲモ含シテ見ルベシ、冒ヲ苦シムハ、久飲ノ者ノ當リマシ

ナリ、年久シク、欬シ、爵冒シテ、気ヲ塞ギ、脈ノ塵弱ナルヲ合  
シテ見ルニ、誰ニテモ肺痿ノ証ナリト思ヘ、凡、肺痿ハ熱ノ  
上焦ニアルヨリ来ル者ニシテ、コノ証ハ熱ナシ、故ニコ、  
ニ肺痿ニ非ルヲ示シテ、其人本有支飲、在胸中故也ト云リ、  
コレ元来胸中ニ支飲アリシニ、其支飲、咽喉マデモ迫リテ、  
欬スルナリ、コレ今ハ支飲ノ証碎ケテ、久欬ニ變ジタレ、凡、  
本支飲ヨリ起リタル証ナレバ、治方ハ、水飲類ノ欬嗽ノ治  
療ヲナスベシトナリ、故ニ治属、飲家ト云リ、コレヨリ飲家  
ニ属スル、欬ノ治方ヲ出サンガ為ニ、コノ凡例ヲコ、ニ舉  
タルナリ、

○欬家、其脈弦、為有水、十枣湯主之、

コノ條ハ、欬家トバカリニテ、久欬ニハアラ子、凡、喘欬ノ病  
ニ苦シム所ノ、恚ヲ、ヒツク、リテ示シタルナリ、サテ其脈  
弦トテ、底ニカナク、中ニテ引ハル形アルハ、内ニアル所ノ  
水飲ヲ、引キ上ゲラレタル故ナリ、コレ水飲上ヅリニナリ  
テ、欬ヲナス者ナルヲ、弦ノ脈ニテ決定シテ、飲家ノ欬ナ  
リト示シタルナリ、水飲ノ上ヅリニナリタルハ、乃チ懸飲  
ノ証ナレバ、痛ハナクテモ、十枣湯ノ主タル証ナリ、故ニ十  
枣湯主之ト云リ、

○夫有支飲家、欬煩、胸中痛者、宜十枣湯、

サテ支飲家トハ、コレマデ支飲ノ証ノアル病者ナリ、其病  
者、欬スルヨリ、胸ニ、気迫リテ、煩ヲナシ、其欬煩ニツレテ、支

飲上ヅリニナリテ胸中ニツリ上ラレテ痛ミヲナスコレ  
支飲ノ病者ナレバ、欬煩ニツレテ胸中痛者ハ、乃チ懸飲ノ  
証ヲ帯ビタルナリ故ニ十棗湯ニ宜ト云リ、宜ノ字ハ元來  
支飲家ノ証ナレバ、欬煩胸中痛、十棗湯ニテ解シタル後  
ノ變化、イカバアランヤ計リ難シ故ニ後ノ變化ニテ、葶方  
ヲ轉スベキ所ヲ示シタルナリ、コノ二条ハ、欬ニヨリテ、  
水飲ノ上ヅリニナリタル懸飲ノ症ヲ示シタルナリ、  
○欬逆倚息不得卧、小青竜湯主之、青竜湯下已、多唾、口燥、寸  
脈沈、尺脈微、手足厥逆、氣從小腹上衝胸咽、手足痺、其面蒼然  
如醉狀、小便難、時復冒者、與茯苓桂枝五味甘草湯治其氣衝  
コノ証ノ欬逆倚息不得卧ノ病状ハ、始ノ凡例ノ支飲ト同

ジケレバ、胸中膈間ニ支飲ナク、欬逆ノ方主ニシテ、唯欬ノ  
為ニ、水心下ニ集リテ、倚息不得卧ノ証ナレバ、小青竜湯ノ  
主タル欬逆ナリ、コレ支飲ノ証ト、別アルヲ察スベシ、サテ  
小青竜湯ヲ与エタル所ニ、外表ノ發動ノ象ニテ、皮表ノ陽  
氣ヲ亡シテ、水飲内ニ伏シ、陽氣外ニ宣ズシテ、夕バ、氣逆上  
衝ノ象ヲアラハシタリ、故ニ寸脈ハ沈ニシテ、寸部并ニ皮  
表ノ氣乏シキニ回テ、下部ニス、カナクシテ、尺脈ハ微ニ  
ナリタリ、コレ小青竜湯ノ、發表ノ甚シキニハ非レバ、元來  
陽氣微乏ノ者ナレバ、乍ニ象ジ、亡陽シテ、氣逆上衝ノ証ト  
ナレリ、陽氣四肢ニメグラズ、故ニ手足厥逆シ、氣ハ胸ヨリ  
咽喉ニテモ衝キ上リテ、心胸ニ陥リ凝リタル様ニナリテ、

厥逆ノミナフズ、陽氣ノ亡ルニツヒテ、血ノ行リアシクシ  
 テ、手足痺セリ、其上ニ氣ハ胸咽ヨリ、益逆上スルヲ以テ、面  
 色赤クシテ、酒ニ酔ヒタル状ノ如シ、翕然ハホメキテ赤キ  
 ヲ云、翕々發熱ノ意ト同ジ、サテコノ下ニ、回復下流陰股ト  
 云六字アリ、コレヲ因テ復々陰股ニ下流スト、訓点ヲツケ  
 テ読ム片ハ、右ノ氣逆ノ上ニ、下部モ和セズト云意ナラン  
 ト思ヘ、凡陰股ニ下流スル片ハ、氣逆上衝ハ、ヤムベキ様ニ  
 見エテ、コノ証ノ主意ニ違ヘリ、又コレヲ復下ムニ回テ、陰  
 股ニ流ルトヨム片ハ、下刺ヲカケテ、下部へ陥リタルヤウ  
 ニシテ、又氣衝ノ勢碎ケテ、真ノ陰脱トナリタルヤウニ見  
 エタリ、然レ凡コノ証ハ、至テ亡陽氣逆ノ証ニシテ、手足厥

逆シタリ、痺レタリ、且寸脉沈、尺脉微ノ者ニ、誰アツテ下刺  
 ヲカケンヤ、コレ上衝氣逆ニヨリテ、下部ノ不順ナルヲ以  
 テ、小便難ヲ云ンガ為ニ、下部モ不順ナリト云意ニテ、目  
 復下流陰股ト云タルナランカ、何レ共ニ解シヤウニヨリ  
 テ、及テ本文ノ意ニ及スル故ニ、削リ去リタリ、サテ面色ノ  
 翕然タル上ニ、十分上逆シテ、下ハ一向ニ氣ノ行ラザルヨ  
 リ、小便難トナリ、其上ニヨリク爵冒ヲナス、故ニ時復冒者  
 ト云リ、コノ復ノ字ハ、上ノ氣從小腹上衝胸咽ト云ヒ、其面  
 翕然如醉状ト云、上逆ノ甚シキヲ受テ、其上ニ復ト云タル  
 ナリ、コレ始ニ冒ノ証ノ有テ、小青竜湯ニテ、一旦開ケテ後  
 此ノ如クニ寸脉沈、尺脉微ニナルヨリ、以下亡陽シテ、氣逆

上衝ノ甚シキニヨリテ、再ビ冒スル故ニ、復ノ字ヲ置タル  
ナラシカト思ヘ、凡、始ニ冒ノ病状ヲ舉ゲザレバ、氣從小腹  
上衝胸咽ホドノ、上逆氣衝ノ証ノ上ニ、復ト云テ、冒ヲソエ  
タルニ見ルガ、穩カナル様ニ思ヘリ、シカト工夫シテ考フ  
ベシ、コレ茯苓桂枝五味甘草湯ヲ与エテ、其氣逆上衝ヲ治  
スルナリ、故ニ治其氣衝ト云リ、コノ與ノ字ハ、追々加味シ  
テ、藥方ノ加減ヲ示スニ回テ、一味ノ差別ニテ、主之トハ云  
難キ故ニ、与ノ字ヲ置タリ、

○衝氣即低、而反更效、胸滿者、用苓甘五味姜辛湯、以治其效  
滿、

上ノ証ヲ受テ、タシト病状ノ轉變ニ回テ、少シツ、ノ加

減ヲナシテ、治スベキヲ示シタルナリ、サテ上ノ苓桂五  
味甘草湯ヲ用テ、其上衝氣逆ハ下降セリ、故ニ衝氣即低ト  
云リ、低ノ字ハ、下降シタル意ナリ、時ニ上逆氣衝ノ下降シ  
タル者ナラバ、全快ニ及ブベキ者ナルニ、反テ變ヲ生ジタ  
リ、故ニ而反更ト云リ、更ノ字ハ、一旦ハ治シタレ、凡、又事ヲ  
新ニ始ル意ヲ含ミタル字義ナリ、更效、胸滿スルハ、上衝氣  
逆ユルンデ、今マデ行リヲ失ヒ、亡陽シテシマリシ水飲、再  
ビ動キ、更ニ效ヲナシ、又水飲動キ上逆シテ、胸滿ヲナスナ  
リ、コレモハヤ上衝ハユルミタル故ニ、前方ノ桂枝ヲ去リ、  
干姜細辛ヲ加テ、其效滿ヲ治スト云リ、氣ノ上衝ユルンデ、  
再ビ效ヲナシ、胸滿シタルヲ治スル方ナリ、故ニ用苓甘五

味姜辛湯以治其欬滿ト云リ、

○欬滿即止而更復渴、衝氣復發者、以細辛干姜為熱藥也、服之當遂渴、而渴反止者、為支飲也、支飲者、法當冒、冒者必嘔、嘔者復內半夏、以去其水、

サテ前方ニテ、欬胸滿ノ証ハ、スグニ止タル所ニ、更ニ復渴ヲアラハシ、衝氣モ亦發セリ、コレ水飲上ニ迫リテ、欬滿シ、口中咽喉マデモ、水飲迫リシ故、渴ハチカリシ處ニ、前方ヲ用テ、渴ヲ發シ、其上ニ始ノ衝氣ノ再ビ發スルハ、實ニ内熱アリテ、血ノ衰ヲ生ジテ、渴スルニハアラズ、又衝氣ノ發スルモ、再ビ前ノ如ク、手足厥逆、麻痺シテ、此行急迫ノ發スルニハアラズ、唯陽氣ヲ助クル、細辛干姜ノ二味ノ熱藥ヲ用

ヒタル故ニ、暫時渴ト衝氣トハ、出タルマデノナリ、若シ内ノ衰ニテ、其証ノ發シタル者ナラバ、續テコノ藥ヲ服シタラバ、遂ニ渴ヲ生ズベキニ、渴ノ反テ止ム者ハ、イヨクニ味ノ蒸ノ勢ノイナリ、コレハヤハリ、内ニ水飲湛エテ行ラザレバナリ、故ニ為支飲也ト云リ、支飲アル者ハ、アタリマエ前冒スル者ナリ、前冒トハ、水飲胸中ニアル者ハ、氣分マデヲ塞ギテ、上部重クシテ、物ヲ被リタルヤウニ思フヲ云リ、其冒スル者ハ、イヨク水飲ノ上ニタマリタル者ナレバ、動テ嘔ヲナスヲ必然ナリ、由テ前方ニ半夏ヲ入レテ、其水ヲ去レバ、冒モ嘔モ俱ニ治スルナリ、

○水去嘔止、其人形腫者、加杏仁主之、其証、忒内麻黃、以其人

遂痺故不内之若逆而内之者必厥所以然者以其人血虚麻黄發其陽故也

サテ前方ニテ水モ去リ嘔モ止テ胸中ノ水飲ハ和シタレ  
凡其水飲ノ開クニツヒテ一身ノ陽氣不順ニシテ血モ  
ノビザル処アレバ其水一身ニマハリテ形腫ルニ至ルコ  
レ内ヨリ水ノ迫リ出シテ腫ル者ナレバ杏仁ヲ加テ主之  
ナリ一通リ皮表ノ水ハ麻黄ヲ以テサバクガ相忘ナリ然  
レ凡コノ証ハ裏ノ水飲ノサバケタルヨリ皮表ニ浮ミタ  
ル水ニシテコノ人ハ元ヨリ手足ノ痺レアル者ナレバ血  
分ノ洪リタル所ノ皮表ノ水ニシテ麻黄ハ用ヒ難シ若シ  
死理ニ逆シテ麻黄ヲ用ルハ皮表ノ陽氣衰乏シ血氣俱

ニ會通セズニテ必ズ一身厥スルナリコノ逆而内之ト云  
逆ノ字ハ順ノ反ナリコレ一通リ理屈ヲ以テ病状ハカリ  
ニテ治療ノ出来難ク証ヲ能ク明ラムベキヲ含シテ示  
シタルナリ所以然者ト云テ其人血分虚シタル故ニ麻黄  
ニテ乏キ所ノ陽氣ヲ發スルヲ以テ必厥ノ証ヲアラハシ  
并ニ杏仁ヲ換用ヒタル所以ヲ説キ示シタルナリ  
○若面熱如醉此為胃熱上衝熏其面加大黃以利之

コレマデ以上ノ五章ハ一个条ニシテ少シノ轉變發動ニ  
回テ加減ヲシテ其病証ヲ辨別シテ示スナリ凡ソ何病ヨ  
リ變動シテモ根本ノ病証ハ變ゼズシテ少シツ進退ス  
ル証至テ沢山ナリ皆コノ五章一个条ノ轉變ノ義ヲ以テ

コレヲ辨明スベシ、又根本ノ病証ハ治シテ、其与平夕ル藥ノ勢ニテ、別ニ變動スル者ハ、コレマテ、經緯篇ノ中ニ、説キ示シタル如クナリ、サテ前方ヲ用テ、コレ迄ニアル所ノ衰化ノ病状、氣衝ヲ始トシテ、效滿、冒、嘔、形腫ニ至ルマテ、粗治シタレ、凡、始ニアル所ノ、其面翕然、如醉状、忘未去、コレ面熱ノ証ハ、胃熱ノ熏上スル所ノ者ナレバ、大黃ヲ加テ、胃熱ヲ利スベシトナリ、其理分明ナレ、凡、胃熱上衝ノ者ハ、胃中ハ輕クシテ、心胸以上、頭面ノ方ノ熱ノ重キ者アリ、コレハ熱邪ノ散漫スル者ナレバ、一漚ニ大黃ノミニテ利シタリ、凡、上部ノ熱ハ、サバテマシ、コレ皆石羔ノカ、ハル所ノ者多シ、白虎湯、竹葉石羔湯ナド、併セ考フベシ、况ヤ始メ小青竜湯

ヲ以テ、発シタル処ニ、寸脈沈、尺脈微、手足厥逆、或痺スル等ノ証アリ、其上ニ從、小腹上衝、胸咽処ノ上逆甚シク、表陽ノ不順ナル所ヨリ、熱氣上漫シテ、其面翕然、如醉状、ナレ、証ナレバ、下部ハ一向不順ニシテ、小便難ノ証モアレバ、コレノ処ノ大黃ハ、斟酌スベシ、余コレノ証ニ石羔ヲ加テ、往々功驗ヲ得タリ、故ニコレニ加、石羔半斤ノ五字ヲ補テ、凡、コレニ△附方、外臺茯苓飲、治心胸中有停痰宿水、自吐出水後、心胸間、虚氣滿、不能食、消痰氣令能食、コレ兼テヨリ、胸中ニ痰飲ヲ貯エタル証ニシテ、折々吐出シテ後モ、ヤハリ心胸ノ氣和セズシテ、直ニ水飲タマリテ、氣滿スル証ナリ、停痰宿水ノマニテ、吐セント欲シテ、吐



セサル者モアリ、又吐出シテ後、停痰宿水ハ、一旦和シテモ、  
 心胸間ノ虚気、胸一パイニ満シテ、食スルヲ能ハザルモア  
 リ、何レモニ皆内ノ水飲和セズ、心胸ニ夕マリテ、胃中へ下  
 降セザル証ニシテ、乍ニ吐出スル勢ノ止ザル者ナリ、後世  
 ノ六君子湯ハ、茯苓飲ニ半夏甘艸ヲ加テ、枳実ヲ去リタル  
 方ナレバ、食飲心胸中ニアリテ、胃中ニテ下降セザル所ニ  
 カ、ルナリ、コレ苓朮枳実ニテ、水飲凝リテ上ニアリテ、停  
 痰宿水トナリタルヲ和シ、橘皮ニテ水飲ノ気ニツレテ、シ  
 メラレタルヲ和シ、人參生姜ニテ血ノ迫リト、水ノ動揺ス  
 ルトヲサバクナリ、コレニ半夏ノ水、甘艸ノ気ノ急迫ヲサ  
 バクヲ以テ、加味シタル太ニ妙ナリ、サテ大食暴食シテ、食

滯ノ劇証ニナラズシテ、胸一パイニ咽マデ、水飲食物ノツ  
 マリタルヤウニ、覺ユル証ニモ用ユレバ、ヨク食飲ヲ和シ  
 テ、下降セシメ、胸中ヲ開クヲ妙ナリ、故ニ消痰気令能食ト  
 云リ、コレ外臺ニ痰飲ヲ和スルノ主薬ニシテ、一切停痰宿  
 水ノ者ニ用テ、コトクク功アリ、試テ知ルベシ、  
 已上痰飲欬嗽篇、通計二十八条ナレバ、一条ニ五章ヲ列  
 子タル条モアレバ、三十二个条トモ云ベシ、四飲ノ差別、欬  
 嗽ノ症マデヲ、辨明シテ餘蘊ナシ、能ク潜思シテ読ベシ、

古訓醫傳卷十七

示月車

古訓醫傳卷十七

